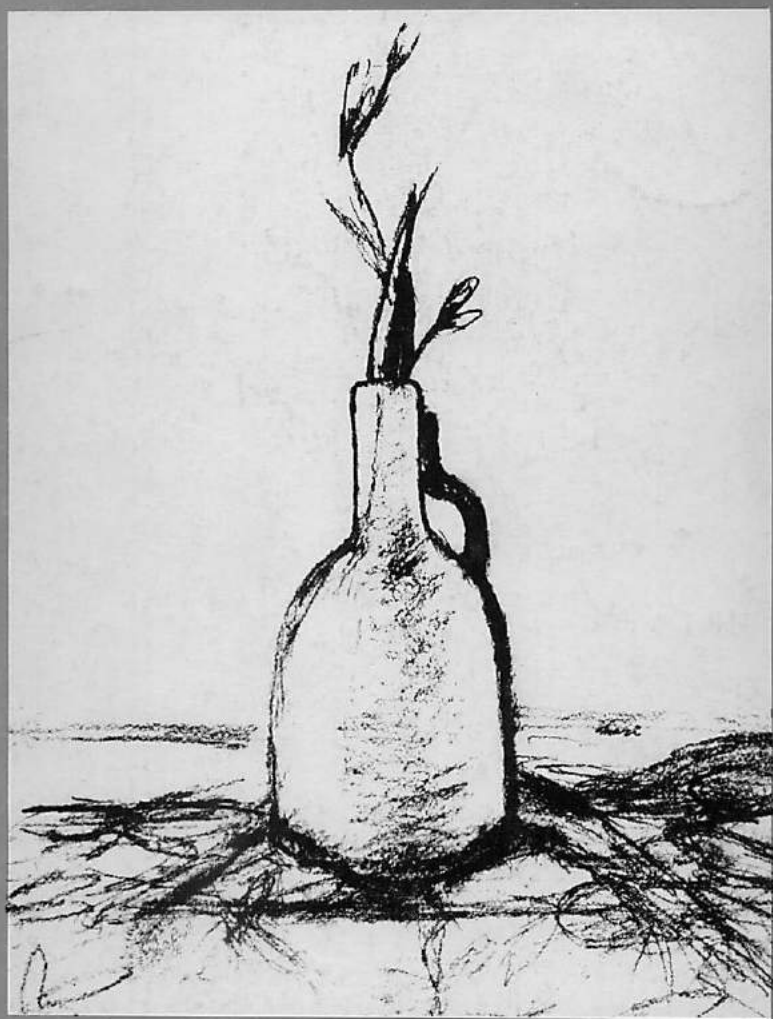
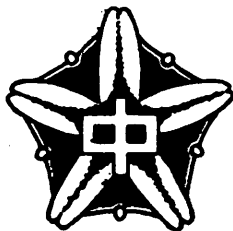


五 稜

第 18 号 (昭和53年度)



函館市立五稜中学校生徒会



詩 頭 卷

と
翔 ぶ

三年 田 中 誠 至

若者はためらう

その青春の第一歩を

若者は苦悩する

孤独にとりかこまれた寂しさに

理解^{わか}り合うことは難しかった

友への信頼が 懐疑の霧に包まれて

色あせて見えることもあった

だが 友よ 思い出してほしい

一つのボールに情熱を注ぎ合ったあの時のことを

ゴールめざして ひたすら競い合ったあのグラウンドを

汗と涙と喜びが その報酬だった

だから 友よ 今一度踏み出してみよう

迷いも悩みもふり返ってはいけない

さあ 友よ もう一度強く蹴ってみよう

鍛え貯えた力を 一気にぶっつけるように

そうだ 未来へ向かって 思いっきり高く翔ぶんだ

そして 五稜が丘に

青春のオーロラを見ようではないか！



誠協眞探 実調理求

九海協実古

校歌

一、ひんがしに 古城いだきて

たたなわる 五稜の丘は

若人の 息吹に満ちぬ

水の上に ふるきをたずね

新しき 光に立ちて

大いなる 力伸ばさん

二、さくら花 しるしと仰ぎ

友がきの 堅く結びて

うち鳴らす 自主の鐘の音

ひとすじに まことを窮め

築きゆく 理想のすがた

ああ とわに われら榮えあれ



思い出のアルバム



第28回函館吹奏楽祭

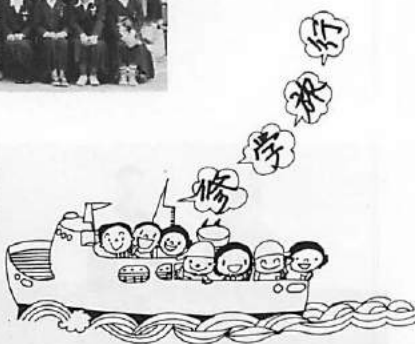


校内体育大会のスナップ

三年A組



三年B組



三年C組



三年E組



三年D組



新旧生徒会役員の面々



固い握手で新旧交替



生徒総会



応援演説風景



(後期代議員会)



任命式

今年から“桜花祭”の名のもとに



満員御礼?の盛況



例によって格調高いスピーチが...



清潔をモットーに



小劇場「夕づる」の面々

PTAバザー



PTA食堂



ア・ラ・カルト (学校生活のスナップ)

▽球技大会



△水泳大会



△校内マラソン大会
(PTA:お母さん役員)

▽避難訓練



▽壮行会応援風景



△待望のLL教室完成

目 次 —「五 稜」18号—

◆巻 頭 詩(とびら) 「翔 ぶ」 3年 田中誠至

◆グラビア写真

◆巻 頭 言 「生きがいのある
楽しい学校をめざして」 学校長 1

◆生 徒 会		
・会長のことば	 前会長 竹内宏幸.....	2
	 現会長 広川 裕.....	3
・生徒会この1年 =総務局日誌より=		4
・専門委員会の活動		6
・クラブ活動(課外)を顧みる		10

◆総務局特集

・五稜中生診断II		16
・文化祭(桜花祭)を省みて		21

◆荣誉を讃える(受賞一覧) 28

◆学 級 紹 介		
・1 年		30
・2 年		35
・3 年 卒業生寸言・先生のことば		40

◆先生寄稿「耐えること」 教頭先生 55

◆本年度の歩み =学校日誌より= 56

◆文 苑 —随想・私の主張・読書感想文・修学旅行記 57

◆職員住所録 72

◆編集後記

巻 頭 言



生きがいのある

楽しい学校をめざして

学校長 斎藤 正之

今年も約二〇〇名の生徒が義務教育を終え希望と不安を持ちながらそれぞれの道に第一歩を踏み出すが、私はその後姿に向って「心身ともに健康な日本人に成長してほしい」と祈らずにはいられない。

高度経済成長の結果、あり余る物資の中で物の値打ちや恩恵を忘れ、あまりにも理論的に合理的に物事を考え処理しようとすることから他人の立場にたって物事を考えるという人間本来が持っているはずの「思いやりの心」が失われ、打算的、功利的な面が強くなる。これは自己中心的な人間があまりにも多すぎる現在です。一体日本の先ゆきはどうなっていくのでしょうか。権利を主張する。この事自体は大切なことであるが、ただそれだけが強すぎて、それとら側にある「義務」とか「責任」の影が薄れてしまっています。自分の義務や責任は棚上げしてしまつて色々な現象や結果をすべて他のせいにするいわゆる責任転嫁ということが目立って多くなつてきています。このような現在の社会、世相を除に陽に受ける学校も決してそのラチ外ではありません。私も学校関係者も今こそ謙虚に反省をし、生徒にとつても職員にとつても生きがいのある充実した楽しい学校にしなければと、いろいろ考えを巡らせ方策を練っているところ

であります。勿論学校だけでできるものではなく父母の皆さんや地域の方々と三者一体となり真剣に対処しなければならぬ問題です。どうぞ力強いご支援とご協力をお願いいたします。

ご承知だと思いますが、今回学習指導要領が改訂され、中学校は昭和五十六年四月から新教育課程に基づく指導が全国一斉に行なわれることになっていきます。その改訂の強調している第一に「人間性豊かな児童生徒の育成を図る」ということが上げられています。

そこで本年度の経営方針にも掲げておりますが、集団の中で生きて行くための最も根本となる「望ましい生活習慣」を身につけようということと登校時、下校時に明るく元気な挨拶をしようということから始めようと思います。現在も気持の良い挨拶を交わしている生徒はおりますが、そうでない生徒も相当数見られます。たとえ家で自分の気持にそわないことがあつたとしても元気な挨拶によつてそれを吹きとばし生きがいのある充実した楽しい学校生活を送らせたいものです。とに角小さな一つ一つの積み重ねがやがては望ましい生活習慣となつて身につくものと思います。根気と忍耐が当然必要ですが、ご支援ご協力を重ねてお願いいたします。



一生懸命

前生徒会会長

竹内 宏 幸

時の流れというのは恐ろしいもので、その流れゆく速さでもって全く何の予告もなしに僕らをおどかすことがあります。今、僕はおどかされている身なのです。一体何から書き始めようかと三年間というひきだしを開けたところ、何と多くの出来事があつたのでしよう。そしてそれらのひとつひとつが、まだ鮮かな光沢をそこに残しているのです。ここまでの表現は多分に虚飾された部分があるのですが、しかし実際、こんな事言ったら死ぬ程に笑いころげられるかもしれないけれど、一年生の時、身分証明書の写真を撮るあの瞬間の緊張ぶり、これはもう本当に鮮かな光沢ですよ。一、二年生の皆さんも、卒業まであと何か月、あと何日なんて頃になったら、きっとあの感激と興奮の化合物を心の中に掘りおこすのでしよう。すっかり前置きが長くなってしまいました。ただちに「任期を終えて」の内容らしく、感じたことを心のままに綴ってみましょう。今の生徒会につける注文はありません。たしかに、現状では欠点といえるところはたくさんあると思います。けれど、生徒会のあり方という点について、わずかではあるけれど向上したようだ、そんな感じを受けています。それは、何回か行ったアンケート等に書かれていることに目を通していただければわかります。生徒会活動を通し

てより良い学校生活を送りたい、そう思う人が結構増えているような手ごたえなのです。だから、あとは総務局の手腕次第のように思っています。そういった考えをうまくひきだしてまとめるのも、芽を摘みとってしまうのも総務局の努力にかかっていると思うのです。かと言って今日、明日に実現というような簡単なものでもないはずで、つまり今は準備期間、土台をつくる時期なのです。そういう期間に役員を務め、一生懸命仕事にとりくみ、ささやかながら進歩の手応えを得たうえに、幾つかの経験とこれからの総務局に残せたことは僕自身非常に満足しています。生徒会は来年もまた進歩するでしょう。いろいろな試みをしてくれさえすれば注文はありません。

ところで、最近一人のお相撲さんが年齢による体力の限界から土俵を去りました。彼の現役時代というのは一生懸命を絵にしたようなものでした。入門が遅かったため、わけもなく自分より年下の兄弟子（先に入門した者）にいびられた下積時代を経てやがて栄光の座へ。その座から一度陥落、その後努力のたまものによって再び栄光の座へ返り咲いたものの、病魔は容赦なく彼を襲い、再度陥落。二度目の転落のあとでさえも、彼は挫折することなく常に一生懸命に相撲をとり続けていました。彼の引退の挨拶というのは彼らしいそれはそれはさわやかな笑顔を伴ったものでした。「自分はこれだけとったから満足です。相撲とりになって良かったです」この言葉は彼の本心でしょう。この時、あらためて一生懸命うちこむことの大切さを感じました。僕らもそうした毎日を送りたいものです。僕が役員になったのは一年以上前だし、僕がこよなく愛したお相撲さんも今は親方。まことに時の流れというのは恐ろしいものです。

生徒会とは

本来どうあるべきか

― 独断と偏見による生徒会のあり方 ―



現生徒会会長 広川 裕

ある日、僕は生徒会はワン・パターンだマンネリだという奴にこう言った――「そんなに文句があるんなら、おまえが中心になって署名運動でも起こせよ」――この言葉には実は二つの意味がある。一つは、自分から積極的に行動しろ！ということ。もう一つは、ワン・パターンもしくはマンネリという言葉だけで物事を処理するな、ということ……。

生徒会誌用のアンケートで「学校」というインスピレーションに對して、僕は「類（退）魔」、イメージに對しては「灰色」と答えた。学校生活は類魔の一途をたどっているような気がしてならない。エネルギーが失われていつているのでは……。

過去において学園闘争なるものがあつた。闘争がはたして正当かどうかについては判断がつかかねるが、個々が不満を対象化して自主的そして積極的に行動した点については正当化したい。自己の主張を明らかにして行動に移すエネルギー……現在のあまりにも安易な行動に腹立たしさを感じる……。

「皆、眠っているのか！……」

おもしろくない、ワン・パターン、マンネリ――この言葉を聞くと最近無性に腹が立つ。自分の不満をただこの言葉のみで表現しようという安易な発想に耐えきれないのだ……。これらの言葉を用い、ただワン・パターンだマンネリだと騒ぐ。明白な理由は全くナシ。ワン・パターンという言葉もしくはマンネリという言葉自体が、すでにワン・パターンでありマンネリである。僕はそっくりいいたい。問題は、ワン・パターンだと騒ぐことより、なぜワン・パターンなのか、どうすればワン・パターン化するのを防ぐことができるのか。自分の不満を対象化することだ。そこに初めて正当な理由ができ、批評する権利が生まれる。理由もわからずにあれこれいってものはじまらない。

個々の不満が対象化されたならば、不満を解消させるため積極的に行動すべきだ。そのためにはまずなによりも生徒会のしくみ、運営そして校内の規則をよりよく知らなければならぬ。

知るためには当然、生徒会とのコミュニケーションを充実させておかねばならない。また、生徒会のほうも投書箱を作るなり、個々の意見の受け入れ態勢を整えなければならぬ。

個々が積極的な活動を行い、それを生徒会が推進していく……生徒会とは本来こうあるべきであり、僕のめざす「私の生徒会」とはまさしくこれなのである。

生徒会この一年

—総務局日誌より—

この一年、生徒会に協力して頂いて有難うございました。私達も、対面式・壮行会・文化祭等の各行事に対して、全力を尽くして参りました。来年度も、総務局員一同、一丸となって頑張つてまいります。皆さんも、生徒会活動を活発にするため、一人一人生徒としての自覚を持って、生徒会を励まし、盛りたてて下さい。ではここで、去りゆく年を惜しみながら、この一年をふり返ってみようではありませんか。

◆53年度前期生徒会役員◆

生徒会長	竹内 宏幸(3)
副会長	谷口 雅亮(3)
書記	中谷 宣将(3)
会 計	杉山 晶規(2)
	沢口 清美(2)
	高山 弘美(2)
	真理(3)

〔四月〕

6日 入学式・始業式

真つ黒けの学生服に身を包まれた、コチコチの新入生。ドキドキハラハラの連続でした。

7日 新入生を歓迎する会

生徒会役員の努力ののかがあって、新入生も、充分楽しんでいました。第一回代議員会

14日

議長も決定！経験豊かな会長さんらの助けを借り、無事終えました。

〔五月〕

15日 修学旅行出発！18日帰着

三年生の皆さん、楽しかったでしょう。「旅行って本当に素敵ですね」

26日 生徒総会

今年のスローガンは「手をつなぎ、一緒に進もう君と僕」でした。一般の生徒からも、二つ三つ意見が出されましたが、全体的には積極性が足りなかったようでした。委員長らを、困らせるような意見を、もっと出しましょう。

〔七月〕

18日 中体連八種競技大会選手壮行会

うちあわせが足りず、大成功とまではいかなかったが、皆、選手の妙技に息をのんでいた。選手の闘志が伝わってくるようでした。五校くフアイト！

19日 中体連八種競技大会

負けてもいいさ。参加することに、意義があるのだ。

26日 終業式

校長先生の決まり文句、「まっ黒になった君たちの顔を見るのを、楽しみにしています」明日から夏休みだ！そんなこと聞いていてもうわの空。

〔八月〕

21日 始業式

〔九月〕

4日 代議員会

文化祭の名前は、今回から「桜花祭」となりました。内容も決定し、あとは

桜花祭を待つばかり。「待ちどおしいな」

〔十月〕

2日 校内弁論大会—予選

とても上手。皆、頑張っていました。さすが、学級で選ばれた人ですね。

12日 文化祭—13日

今年のテーマは、「手をつなぎ、共に築こう桜花祭」でした。会長さんは、「フォークダンスがなくて残念だ」と嘆いていました。

24日 立会演説会・投票

今回の立候補者は七人で、定員にピッタリとはまり、信任投票をすることになりました。半径五ミリの円を描くのに、みんなは困っていたようでした。

〔十一月〕

2日 生徒会役員任命式

全員ごとに当選/旧役員の引退の言葉に続き、バリバリの新会長は、抱負を述べました。なんといっても印象

的だったのは、バッチ交換でした。新旧の会長は握手までして、ファイト満面の顔つきでした。今後一年間、生徒会の仕事に全力を尽くそう。



◆53年度後期生徒会役員◆

生徒会会長 広川 裕(2)

副会長 河合 昌夫(2)

書記 金沢 正樹(1)

会計 辻 直己(1)

水島 千香(1)

〔十二月〕

18日 父母会—21日

父母会も、今年最後となりました。一年・二年はまだいいが、三年生にとっては、この日が一番怖かったのではないかな……。

23日 終業式

早いもので、二学期もこの日で終わり、明日から冬休みだ。「早く来い来いお正月……」クリスマスをお忘れるな!

〔一月〕

19日 始業式

〔二月〕

5日 中体連スキー大会壮行会

〔三月〕

10日 『五稜』発行(予定)

13日 三年生を送る会(予定)

15日 卒業式(予定)

24日 修了式(予定)

(以上)

専門委員会の活動



生活委員会

反省と今後の課題

今年の生活委員会を振り返ると、活動計画目標などを決めたのだが、それをあまり実行出来なかったと思う。しかし、昨年度にくらべてみれば、少しは進歩しただろう。例えば文化祭の時の指導や、チェックカード、服装検査の定例会などいろいろあった。だが、私たちは生活委員という自覚がなかったために成功したといえない、どんな計画でもいいから最後までやり通すことである。

生活委員は、好まない委員の中の一つである。週番で「朝早く学校にくるのがいやだ。帰り遅くまで残っているのはめんどろ」と、よく聞かれる。しかし、こんな気持ちを捨てて、自分から進んで委員になって「楽しい学校生活を送ろう」という強い意志をもってほしい。楽しい学校を作るのは君たちなのだ。よく考えてほしい。

来年は、今年の委員会を踏み台にして、よりよい生活委員会にしてほしい。

生活委員になった人は、生活委員という強い自覚を持ち、委員会を多く開いて活動計画



を立てて、それを長く継続させることです。私たち元生活委員は、皆期待していますので、後輩の皆さん、がんばってください。

(柏谷・石田記)

学習委員会

自主的な学習を！

今年の活動をふり返ってみると何か物足りないように思える。最大の計画である朝学習だが前期はほとんど思うように実行できないまま終わり、後期は少し前期を上回っているようだが、実行しているところ、していないところという差があり、十分とはいえない。この朝学習については、まず委員の積極性が必要だ。それと全校生徒の協力とが一致して初めて朝学習という形ができる。今年は、この両方が欠けていたため失敗に終わったのではないだろうか。

よく委員会で「クラスみんなの協力がない」という問題点が上げられるのですが、生徒だけの手で進める委員会にとっては、どうしても全校生徒の協力しか解決方法はないのです。もう少しこのことを心に留めておいて下さい。そして朝の短い時間を有意義に使いまししょう。

最後に、来年度は全校生徒が自主的に学習できるように活動を進めていくことを期待します。（大高和久記）

保健委員会

健康な学校生活を
送るために

今までの保健委員会ですべて重点的に行われてきた事は、貴重品の管理などでした。

貴重品の管理、この仕事为重点的に行われてきた理由は、時計、金銭その他の貴重品の紛失が、この五稜中内でおこったからです。

貴重品の紛失、これは、ただ単に無くしたと言っただけでなく、残念なことに生徒の中に盗みをはたらいたものがいたのです。

今後、保健委員と生徒全体が協力しあい、このようなことが二度と起きないことを願います。

その他、前期には、体育祭、校内水泳大会球技大会など三つの大会の他に新しくマラソン大会が行われました。この種目も他の大会に劣らぬ活気に満ち、どの学年も優秀な成績を修めました。

来年からも新しい競技を取り入れて、この五稜中学校をより楽しい活気に満ちたものになることを望みます。

顧問の先生方、生徒のみなさん、今までの御協力本当に感謝します。（松川幹治 記）

給食委員会

清潔さを第一に

給食委員とは、なんだろうか。

給食委員とは、給食に関する仕事をするところにかわりないけど、なんといつても「清潔にする」ということだと思う。

そういう点で、積極的に活動してきたと思います。実行したことといえば、給食室の前に立ち、マスクやエプロンなどの検査。

おばさんたちも協力してくれました。

その他、せっけんなどの配置、献立表を掛いたりなどの活動もありました。委員会での態度は、一部の男子生徒の発言だけで終り、他の生徒は、その生徒にまかせているという感じでした。もう少し、それぞれの考えを述べるべきだったと思います。

後輩のみなさん、より衛生的に、より活発な委員会を、期待しています。

（北知春、白井美奈子 記）



整美委員会

学校内外の整美に

努めよう

「五稜中は清潔だと思いますか」と聞かれたらどう答えますか。たぶん「五稜中ほど清潔な学校はない」と言う人は、まずいと思います。「それでは、清潔なことは好きですか」と聞かれたらたぶん「清潔なことなんて嫌いだ」なんていう人はまずいと思います。

それではなぜ学校を清潔にしようとしなないのでしょうか。「掃除なんて面倒だ」と言う人がいるかも知れませんが、でもそれでは、だめなんじゃないですか。いくら面倒といつたって自分が三年間も使わしてもらう中学校をどうして掃除をするのが面倒なんですか。たとえ、面倒でもその面倒をがまんしてきれいに掃除するのが本当だと思います。

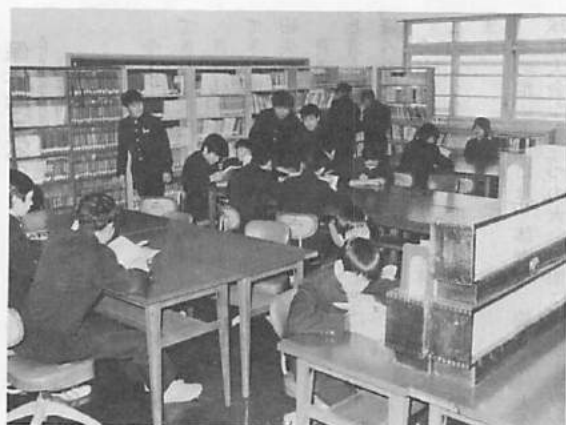
五稜中の清潔状態は、必ずしも良いとは言えません。ばくたち三年はもうすぐ卒業して行きます。現在いる一年や二年のほか未来の五稜中生徒に今よりもっと五稜中をきれいにすることを望みます。

(坂本達美 記)

図書委員会

図書委員の課題

前期の図書委員の反省は、図書委員としての自覚が足りなかったこと。次に、図書館を利用する生徒みんなの態度が上げられる。



まず図書委員の自覚。それは、積極的な活動をし、仕事を最後までやり遂げるということ。前期の図書委員は、それに欠けていた。が、中には熱心にやってくれ人ものいた。ということは、やらなければならぬ気持ちがあつたのだと思う。

ただ、実行することができなかったかもしれない。

また、図書委員だけでなく、図書館を利用するみんなの態度も悪い。相談室とまちがえている生徒がずいぶん見受けられる。図書館とは、多くの書物などを保管し、多くの人に読ませる所。と同時に読む場が静粛でなければならぬ。このことは去年図書委員一同が強く希望したことでもある。しかし、現実にはさっぱり改善されない。再び、全校生徒に訴える。図書館を静粛に！この問題を解決すること。

最後に、図書委員へ。あえて困難に挑み、苦勞を喜んで受けれる。そして、そこから逃げようとする自分を叱る。そのような自覚と使命感をもって、現状の改善に努力してほしい。

(藤田延雄 記)

文化委員会

これからの文化委員へ

自分が前期にやってきたことは、数えることが必要くらい少なかった。ほんとうはより多くの仕事をやらねばならないのだろう。

しかし自分でいえば、これでもよかったのではないと思う。なぜなら、自分たちが、力を出しきった。とはいかないが、皆、自分なりに努力したからである。

一学期は、たいしたことはやらずに終わったが、二学期には、文化祭の前に仕事を行った放課後に残って、案内図やポスターを製作した。それは決して素晴らしいものばかりではなかったけれども、精いっぱいやったもので、努力したということだけでいいと思う。

なぜなら、自分は、文化祭のために案内図やポスターを作ったのではなく、自分のために作ったからである。完成の喜びを得るために。これからの文化委員には自分のためであってほしい。

前期委員長 広川 晶
後期委員長 菊地由美子

放送局

—飛躍へのプロセス—

校内放送の改革—この一言をモットーに、今まで頑張ってきた。そう頑張ってきたつもりなのだが……機械の老齡化、技術の未熟さ、などが伴い、意欲ばかりが先立っていてあまりというか全くといっていいほど成功していないように思える。

だけど「校内放送」って一体何だったんでしょ。私達もいつも考え込んでしまうんです。何の為にやっているとしよう！って連絡は別としても、現在の校内放送ってなにか目的を失っているような、理由なき行進的な気が多少ならずとも、してくるんです——

放送を流すからには何かしら意味を持たなければならぬと思う。ある統一されたテーマが必要のような気がしてくる。そして、そのテーマを押し通すか、あるいは意識的にテーマを隠す努力をするか……どちらにするかによって校内放送そのものの価値観が変わると思う。私達は今、校内放送のあり方についてもう一度よく考えてみる必要があると思う。

S 53・12・17現在において（広川 裕 記）

応援団

縁の下での力持ち

今年の我が五稜中応援団は、先輩からの教えを守って団員一同一生懸命応援してきたと思います。

今年の団は、例年とはちがった味を出し我が五稜中にふさわしい応援団を築き上げたと思います。

毎年の悩みである「人数不足」には今年も頭を悩まされました。

しかし、これは、私達にはどうすることもできませんでした。今後の応援団は、このような悩みもなくすることだと思っています。

このような悩みは、みなさんの考え一つなのです。応援団とはスポーツとは違った何かを持っているのです。現一・二年のみなさんにこの何かを味わってもらいたいと思います。最後になりましたがいろいろ御指導してくださいました。押忍！！

新団長 高橋二六生（坂本 有 記）

クラブ活動(課外)を顧みる



野球部

閉ざされた優勝への道

ツーストライクツールボール。ピッチャーが投げた。高めの速球だ。上田の瞳が輝いた。空振り。「ゲームセット」主審の声。張りつめていたものが切れた。「ウー」試合終了のサイレンが鳴り響いた。みんなベンチから出て終了のあいさつ。そこにはナインの顔があった。みんな笑っていた。悔やしさを吹き飛ばすように。南の風が球場を吹きぬけた。引き上げる我々にあたたかい声援があった。応援の皆さん、ありがとう。今、長かった三年間のできごとが頭をよぎった。苦しかったこと、楽しかったこと、すべてナインの心の中にある。疲れたというより、おわた、やったという解放感、満足感が我々を包んだ。大川戦は快勝。しかし戸倉戦は残念ながら勝てなかった。新人戦で屈辱を味わった我々。中体連は「必ず優勝を」の気持ちでのぞんだ。しかし、三回戦で消えた。先輩の皆さん、ごめんなさい。最後に後輩の諸君、我々の二の舞とならぬようがんばってくれ。五稜中野球部は永遠に不滅です……。(谷口雅亮記)

サッカー部

めざせV1

我々の今回の成績は、次のとおりである。昭和五十二年の一回戦負け(対亀田戦)そして、新人戦の一回戦負け(対銭亀沢戦)の屈辱をはらすための中体連だった。五十三年中体連一回戦(対潮見戦)は、三対〇の勝利二回戦(対的場戦)は、大苦戦をしいられたが、一対〇の勝利。三回戦(対亀田戦)は、我々の最大の弱点、左のキックがあまり出来ないこと(例外もある)を、相手チームの監督に、みぬかれ、左側の攻撃を受け、我々チームの和は、くずれてしまい〇対四という大差で敗北におわたが、中体連三位という好成績におわた。だが、我々の後輩である、一・二年諸君が、新人戦、そして、五十四年の中体連では、今回より、よい成績をおさめてくれると思う。一・二年諸君、今までの練習では、今回以上の成績をおさめることは難しいと思う。もっと練習を強め、左キックの練習、そして、チームワークを強め、かつ一日一日の練習を真剣にやるのが大切だと思う。(部長記)

監督 毛間内 茂二 主将 佐々木 勝利
マネジャー 樋口 宏美、花摘 博子

金丸 理恵

◎メンバー◎

GK	三橋 一也	CF	佐々木勝利
RB	杉山厚司郎	LI	国枝 孝二
LB	齊藤 浩司	LW	長内 弘志
RH	武田 浩一	SB	関本 貴史
CH	稲葉 滋	SB	島津 保宏
LH	森崎 潤也	SB	小田切光彦
RW	境 雄司	SB	黒川 亨
RI	三橋 大二	SB	浅水 宏基



最後に、一・二年諸君、やっぱり試合に勝つには、チームワーク、そして、五稜サッカ―部は、左キックの強化だと思ふ。

(佐々木勝利記)

テニス部

『栄光からの脱落』

「中体連」「新人戦」我々は悔いのないように試合をしようと考えていました。しかし実際には、「中体連」団体戦・個人戦ともに惨敗。「新人戦」女子個人戦三位。と、あまり喜べる結果ではありませんでした。春季の研修大会では男子個人戦優勝とまずまずの滑り出しでしたが、かんじんの中体連では、ベスト8とまりで入賞することはできませんでした。今思えば先生の言葉どおり、す早く用意してすぐに練習に励むべきだったと反省しています。今年は例年になく、練習試合も多く、練習時間も長かったのに、両先生の期待にそえずに申し分けないと思っています。最後に後輩諸君へ、毎年言うようだけれども、もう一度精神を鍛練し直し、試合ではもちろん、練習でも一瞬たりとも気を抜かないように。君たちは入賞できるだけの力を充分もっているのだから、決して我々の二の舞はしないように。「悔いのない、そして頭脳プレー」中心のテニス」を目指せ!

(佐藤公彦・鈴木千賀子記)

バスケットボール部

《男子》

見事「伝統」を受けつぐ!!

この一年間、とうとう先輩たちの残していた「伝統」を破ることなく終りました。今年は特に三年生が11名もいる、というこゝとで四六時中、熾烈なポジション争いが展開されていました。そのため試合中でもエゴをむき出しにし、チームプレーに徹しなかったという事が「弱体バスケット部」の認めざるを得ない、最大の欠点だったと思います。

そんな我々にとって本当に希少価値がある二勝一本通中戦・旭中戦―は今後の各部員の人生の大きな自信源となることでしょう。最後に、試合となるとフイーバーなさった鹿角先生、どうもありがとうございました。

(記・田中誠至)

輝け!! 栄光の一回戦ボーイ

4	至文	夫一夫一志	利次	太
5	誠博	靖順治順靖	勝俊	茂
6	中内	橋島山橋	内寿	藤黒
7	田毛	高竹境	木福	石荒
8	高	高竹境	木福	石荒
9	高	高竹境	木福	石荒
10	高	高竹境	木福	石荒
11	高	高竹境	木福	石荒
12	高	高竹境	木福	石荒
13	高	高竹境	木福	石荒
14	高	高竹境	木福	石荒
15	高	高竹境	木福	石荒
16	高	高竹境	木福	石荒
17	高	高竹境	木福	石荒
18	高	高竹境	木福	石荒

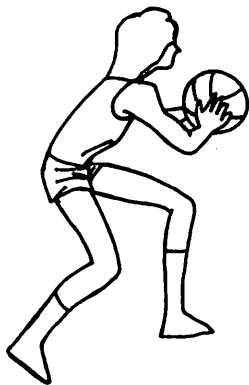
〈女子〉

後輩に期待！

今年はず年の「中体連二位」という好成績を保持できず、一回戦でワンゴール差という惜敗。

敗因は、体力負け／練習不足／であったように思える。あの夏休みの苦しい練習、今となつてはみな無駄になつたのではないか。これからは、まず、正しいバスケットを身につけて、来年は、悔いのない試合ができるよう頑張ってください。

(十倉記)



バレーボール部

実力発揮されず……………

今年は、新入部員が、多いことに驚いた。三年五名十たよりになるマネージャー一名二年九名、一年一〇名により、さいききの良いスタートだったのだが、どこでどう間違えたのか、全然不本意な成績に、終わった。

中体連では、三年の女子が、応援に来てくれたのに、第一試合ということもあつて十分な実力が発揮されず、残念だった。

こんな結果に終わったのも、基礎が、成っていないかつたことだと思う。

でも、部員が集まつて、休憩を延長して、話し込んだりという、楽しい時間もあつた。後輩の皆さんへ

A 私達がやり残した事をはたして下さい。
M 中体連に向かって、がんばって下さい。
K 守りをしっかりと、かためること!!
O とにかくがんばって下さい。
F 何事に対しても、努力あるのみ。
お世話になつた先生、本当にありがとうございました。

(三年一同)

卓球部

来年こそ卓球部に優勝を

我が卓球部の毎日、行なっている練習について、まず紹介します。放課後各自集合してまず、台の用意をする。それから各自軽く打ちあつて、肩ならし、そのうち乱打になり、後は各自で練習、冬は暗くなるので時間が少ない、が、五十四年には、二間廊下にも電気がようやくつき、冬でも四時、五時ごろまで暗くなつてもこの電気のおかげで夏と同じように練習ができるようになりました。しかも、今年是有力な一年生がはいつたので全体的に力が強くなり五十四年は優勝が狙えるような気がしてきました。しかし、毎日、毎日、練習しているわりに今年はまだというより、ほとんど、全くといっていいくらい成果が上がりません。最後に猪狩先生、これからも、よろしく御指導のほどお願いします。

(部長記)



体操部

堂々二位

わが体操部の78年度の成績は、男子が中体連団体総合第二位。女子は第三位でした。

道南大会では男子が、中体連と同じ第二位。女子は残念でしたが、入賞を譲りました。

男子の場合は、昨年に続きかつこよく優勝とは、残念ながらもありませんでした。

男子・女子ともに、中体連は全員一応出場したのですが、道南大会のときは、小林君が思いがけぬ負傷により、出場出来ず、女子では、森さん・笠井さんのベテランが、転校してしまいました。

三名が大会に、出場できなかったもので、多少は苦勞しました。しかしみんなは、自分の持っている良い点やクラブで、学んだ技をフルに活用し精いっぱい頑張ったからこそ、今の成績に、なったのだと思います。

男子の種目には跳箱・床・鉄棒・タンブリックなどです。女子の種目は、床・平均台・跳箱・鉄棒などがあります。



部員名

女子

荒木

笠井 森

伊藤 野呂

松長

男子

寺岡

中塚 小林

北沢 青木

目谷 大高

菊地 宇田川

田中館

今の部員は、やさしい部員ばかりですから入部するのなら今のうちです。はいりたい人は、どしどしはいつて五稜中学校体操部の伝統を受けついで下さい。

ただし、七月ころになると、先輩たちがきて、猛練習がおこなわれるのを覚悟して……

後輩は先輩に欠点を聞き、先輩の良いところを、見習いそれを自分のものにし、それ以上の技を、身につけて、来年度こそ、また優勝するように、練習にはげんで、良い成績を残してください。

(宇田川記)

柔道部

今年度の成績と来年の抱負

【成績】

中体連(個人戦の部)

一年の部

一位 尾山弘邦……胸長短足の賜物。

二位 影浦 潔……迫力のある顔がきいた。

三位……藤井隆憲……小学時代の練習の成果。

軽量級

一位 益子 健……涙ぐましい絶食の成果。

五位 大浜 武……少しの練習で好成績?

六位 坂本達美……何か裏が……

中量級

一位 横山光国……強さが輝いた。

四位 中村和哉……相撲で鍛えた腰の成果。

重量級

二位 畠山直士……太っていたため。

四位 塩越英昭……左ききが有利だった。

団体戦

第二位 畠山、横山、浄土、中村、塩越

道南柔道選手権大会(団体戦)

初優勝 石ヶ森、影浦、鈴木、浄土、尾山



個人戦二位 塩越英昭：言うことなし。

右のような好成绩を取めた練習方法は、体操を適度（適当）にやる。次に打ち込み（技をかける）を百回、二百回（50回、60回ぐらゐが関の山）やる。このころに鈴木先生が登場するので、みんなまじめになる。先生が来てからは、先生を中心に、生死をかけて（ちよつとオーバー）必死にやる。このような練習で、五稜中学校柔道部初の優勝を手にしたのである。

これからは、もつと先生の来る前からまじめにやり、われわれ三年生が第二位しかとれなかつた中体連で優勝し、全道体へ羽ばたけ！そしてあわよば全国大会へ・・・。

水泳部

“来年こそ全員入賞”

水泳部の顧問、鹿角先生は、私たち部員にとつては父のような存在であります。

父はまだ若く？ 私たちと一諸に泳ぐこともあります。親しいの私たちは父の体力にあわせゆつくりゆつくり、そのため私たちの体力までが退化してしまつたのです。このままでは水泳部の運命は……わが弟たちよ退化した体力をとり戻すために努力しよう。そして、来年こそは全員が入賞できるようにしよう。

絶対に一位になれるといひません。せめて六位までに入るのです。

努力なしでは栄冠は得られない。

皆さん水泳部に再び栄冠をもたらすために入部しましょう。泳げなくてもいいのです。

父の指導があれば一週間のいえ三日で泳げるようになるでしょう。

君の足で、あなたの腕で水泳部を勝利へと導きましょう。

（記・佐々木貴子）

理科部

「あゆみを続けて」

今年の理科クラブはあまり活発な活動でなかったようでしたが文化祭だけは例年どおり無事に終えたようです。

その文化祭の今年の実験テーマには「火」を選びました。内容は特製の火花や火山噴火、石炭や木炭の乾留を中心に取り上げました。日常の活動はこのための予備の実験に多くの時間をとられました。

校外での活動は空港のプラネタリウム見学をし、四季の星座、南半球でみえる星座を資料の状態で見せてもらいました。

今年の反省点は先輩が残っていた研究テーマをまとめられなかったことと、全市の理科発表のコンクールに部からの発表がなかったことです。それと文化祭が終つた後の活動にもう少し工夫が必要だと感じました。

今、このような反省点を考えに入れて来年度の計画をたてています。さあ、みなさんも私たちといっしょに明日のために真理を追求していこうではありませんか。

（大場文司・記）

吹奏楽部

“充実した一年間を

ふり返って”

我が吹奏楽部の活動は、昨年の11月ごろから新入部員と共に始まり、冬休みの特訓を経て、卒業生を送る会、入学式でまず最初の発表をし一応の成果を収めた。

その後一年生部員を加え、楽器の数もふえて、四十名あまりの編成に成長し日夜練習にはげみました。特にコンクールを目指し、夏休みも返上しての練習は、とてもつらくもあつたけど過ぎてみると「やりとげたんだ」という満足感、充実感が身を包み、これからも苦しいことがあってもがんばり通せるという自信を得たことは大きな収穫だったと思います。さて、行事を追ってふり返ってみると入学式の後、五稜郭祭りのパレードがありましたが、運悪く雨降りになって中止、帰り道の途中で晴れてしまうという残念な結果に終り次は七月末の吹奏楽祭、これはポップス二曲を楽しく力いっぱい演奏して好評でした。

二学期になっていよいよコンクールです。去年までは25名以下のC編成でしたが、今年は人数もふえたので35名以下のB編成にし、

難曲「吹奏楽のためのパッサカリア」を自由曲にきめて、全道大会を目指しがんばりましたが、残念ながら銀賞という結果に終りました。全道に出れなくてもせめて金賞をとれたら……とくやまれますが、やはり他校より技術的にも劣っていたようで、まずその点を改善しなくてはならないと感じました。

その上で日夜練習を重ね、来年こそは金賞をとって全道大会へ出場できるようがんばって下さい。これが後輩諸君への願いです。

「目ざすは全道大会出場」(石田 記)



スキー部

入部歓迎

スキーは他のスポーツに比べると、シーズンが短く、その上積雪や天候などにも左右されやすいので条件は厳しいと言えます。

しかし真つ白いゲレンデを風を切って滑る時の気分は全く素晴らしく、雪国に住んでいるからできるスポーツなのだと思います。

現在部員はマネージャーを含めて十二名ですが、三年生が大部分なので来年は一・二年生の入部が少なくなれば部の活動も危なくなってしまうです。ですからスキーに興味のある方はぜひスキー部に入ってスキーをいっそう楽しいものにして下さい。

部員紹介

- | | |
|--------|----------------|
| 一年生 | 渡辺英樹 |
| 二年生 | 板谷晋延 菅野和久 |
| 三年生 | 越後正浩 小川伸幸 坂本達美 |
| | 竹橋治夫 松川幹治 根本道夫 |
| マネージャー | 田中誠至 杉山厚司朗 |
| | 三橋昇 |

総務局特集

五稜中生診断 PART II

目アンケートにみる生徒の意識と生活目



五稜中生における特質とは何か？

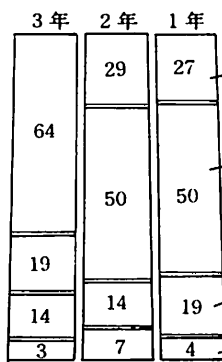
総務局では、昨年に引き続き、全校生徒を対象に意識調査を行ない、その実態と特質を明らかにしようと試みた。――

A 家庭学習について

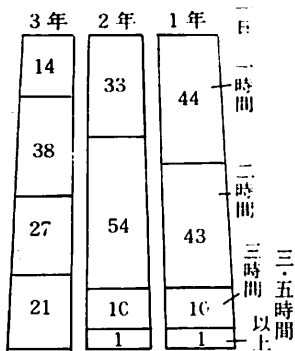
◎問一 あなたは、毎日家庭学習をしていますか。

(回答の数字は全て%を示す)

は毎日する 時々する テスト前だけしない



◎問二 家庭学習の平均時間は？



三年生は、去年よりかなり頑張っているよう。一年生はやや悪化。二年生は、かなり落ち込んでいる。

二年生、もっと努力を！

三年生、さすが、我らが先輩！五稜の輝かしい顔！

一・二年生に比べ、三年生の頑張りが目立っている。三時間以上勉強している人が、三年生全体の約半数を占めているのは昨年より、充実！

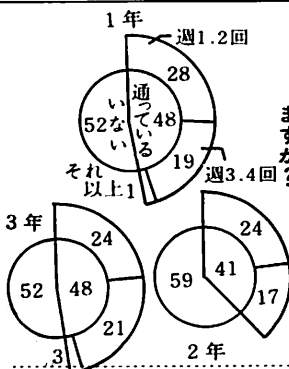
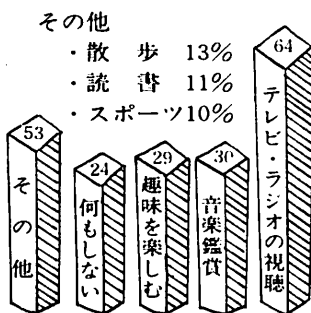
一・二年生、先輩の築いた伝統を汚すな！

◎問三 現在、学習塾に通っていますか？

B 個人生活について

◎問一 あなたは、余暇をどのようにして過ごしますか？

(注 複数解答)



全体の半分以上の人が塾に通っていない、というのにはちょっと驚いた。学年の差もほとんど感じられない。塾にたよらず独力で、というのはいい傾向ではないだろうか。

予想通り、テレビ・ラジオの視聴が第一位。それにしても三人に二人。テレビ人間！五稜中生総白痴化とならないように、ご用心。

集計を見て一目瞭然なのは全体的に「室内閉じこもり型」家の中で瞑想にふける(?)のもいいけれど、たまには外に出て若いエネルギーを発散させたらどう？

◎問二 あなたは、優越感、劣等感を持っていますか？

持っている 男子 女子 全体
優越感 8 11 9
劣等感 2 1 2

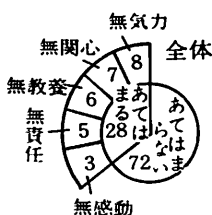
持っていない 92 6 10 7
91 89 92

◎問三 あなたは、悩みを誰に相談しますか？

友人 67
両親 46
兄弟姉妹 32
その他(先生・自分) 16
◎問四 君は、三無主義、五無主義にあてはまると思う？

無感動 72
無責任 3
無関心 5
無教養 6
無気力 8
全体 28
あてはまる 7
あてはまらない 21

あてはまる 13 87
2年 44 56
3年 29 71



意外や意外ノ五年前同様の調査をしたら、とある学年では劣等感を持っていた人は、ナ、ナント二人に一人だったんだけど……。自信過剰でもないし、不安でもないし……。(それとも、無関心なのかも)

友人に相談する人が圧倒的に女子は三人に二人と、かなり高い割合。

やっぱり、日頃打ちとけている、その気安さがあって、相談しやすいんでしょう。とにかく、悩みは外へ発散させよう。

なぜか二年生だけが、〇無主義に目されつつあるようだ。二年生、ファイト ガッツ！ 内容別では、少ないながらもまあ無気力が第一位。

C 学校生活について

◎問一 「学校」って聞いて何を思い出す？

- 勉強
- 友人
- テスト
- 先生
- 教室 給食

◎問二 「学校」って、何色だろう？

- 灰
- 黒
- 白
- 青
- 緑

◎問三 学校内で一番好きな場所一番嫌いな場所は？

▷好きな場所◁

- 教室
- 体育館
- 図書館
- トイレ
- 音楽室

「勉強」って後で出てくるけど、嫌いな言葉のトップなんだ。学校って大嫌い、っている人が多いけど、好きになるよう自分から努力しようよ。

学校って、イメージ悪いんだなあって、この集計を見てつくづく感じました。灰・黒・白って無彩色でしょう。なんだか味気ないわね。

一番好きな場所には「教室」がきました。理由として、一つには、冬に実施したアンケートだ、ということがあげられる。ストープを、友達同士取りかこんでおしゃべりしあう、教室が最高って思うのも無理ありません。

◎問四

▷嫌いな場所◁

1. 職員室
2. 教室
3. トイレ
4. 美術室
5. 体育館

五稜中生の生活行動・態度の面で、最も欠けていることや今後、向上改善したいことは、どんなこと？

- 一、団結そして協力が必要
- 二、自主性、積極性に欠ける
- 三、規則が守られていない
- 四、礼儀をしっかりと
- 五、責任感に欠ける

なぜか嫌いな場所にも、教室があげられています。教室＝勉強をする所、というイメージからきたのでしょうか。職員室がワースト・ワンになっしまいました。職員室＝しかられる場所、と思っっているからでしょうか……

これは、ある意味でみんなに一番密着している題材だと思う。

まず、最も多かったものは「団結」そして「協力」こういうものは、目に見えないもの。一人一人がやはり努力しなければ……自主性・積極性に對しても同様であらう。

D 個人意識

※ 6年前のアンケートから

6年前といえば、札幌オリンピックの開かれた年。僕達、私達は小学校の低学年。その頃の中学生と今の僕達私達、さてさて、どこが違うかな……

◎問一

あなたの好きな言葉は？

好きな言葉

- | | | | |
|----------|-------|-------|-------|
| 現在 ↔ 6年前 | 1. 愛 | 2. 友情 | 3. 自由 |
| 嫌いな言葉 | 1. 勉強 | 2. 別れ | 3. 死 |

◎問二

あなたの好きな色は？

- | | |
|--------|------|
| ▷好きな色◁ | 6年前 |
| 現在 ↔ | 1. 白 |
| | 2. 青 |
| | 3. 緑 |
| ▷嫌いな色◁ | 6年前 |
| 今 ↔ | 1. 黒 |
| | 2. 紫 |
| | 3. 赤 |

好きな言葉はあまり変わっていません。あ。ありがとうが消えちゃって「自由」になるのが、今「らしい」って感じ。嫌いな言葉はガラッと変わって「バカ」から「勉強」。

好きな色で「黄」が「緑」に変わったのを除くと、順位は違えど、色自体は変わらない。色って時代に左右されないよう。好きな色のトップは「白」。嫌いな色では「黒」対照的！

◎問三

この世で、
最も美しいもの(二)は？

美しいこと・もの

1. 友情
2. 自然
3. 愛

醜いこと・もの

1. 争い
2. うら切り
3. 殺し合い

美しいものの第一位は、「友情」だけど、そんな美しい友情が実在するかなあ……醜いことでは一位が、「争い」「うら切り」にしても、「殺し合い」にしても、人間同士の傷つけ合いってところだな。

◎問四

あなたの好きな作家は？

1. 星 新一 (SF/ショート・ショート)
 2. 横 溝 正 史 (推理)
 3. 松 本 清 張 (推理)
- ※カッコ内はジャンル

やはり、星新一が第一位だった。ショート・ショートって気軽に読めるからかな？横溝さんは、作品が映画化されてファンが増えたみたいでも森村誠一は何処……

◎問五

一九七八年を象徴したもの(二)は？

1. 大平内閣成立
2. 馬
3. 日中平和友好条約
4. 王800号
5. 不況

「馬」は干支からとったもの。なんか重大ニュースの選出みたくなっただけ、トップは「大平内閣成立」「日本を生かすも殺すも総理大臣の腕次第」ともかく頑張っただけ。

E 五稜中生診断Ⅱ総合所見Ⅱ

◆ 学習面では、昨年に比べて、三年生が大いに充実しているようだ。三年生の学習生活のがんばりは「進路」という各自の目標があるからだと思うが、それは昨年だって同じ条件である。

一・二年生は、三年生の学習意欲や態度に刺激を受けて、五稜中の健全な校風をさらに発展させるように努力しようではないか。

◆ 生活面・行動面では、全体的にみて、やや不調だということ。それは、「みんな動こうとしない」ということである。具体的に「余暇の過ごし方」では、積極性に欠け、若人らしい生命感が感じられない。学習に追われて、余暇が不足というのなら、それでもよいが、問題はそういうことではないと思う！

確かに「行動しない」ことは、楽なことだし、特に不自由を感じなければ、当然そうやっていくだろう。しかし、それは反面、「逃げていこう」ということになると思う。現実から逃避しては、何も始まらない。何も生みだされないと。結局「逃避」は「自分を殺す」ということになるだろう。なぜなら、そこには進歩がないのだから。◆ ◆ ◆ 結論を出そう。——五稜中の生徒は「自主的に行動する」という点を除けば、健全でまじめである、ということになる。しかし、最も大切なことは、「自ら行動を起こす」ことだ！それが五稜中生における「青春の証明」といえるだろう！

(文責 広川 裕)

第18回

「文化祭」を省みて

＝手をつなぎ共に築こう桜花祭＝



▷開会の挨拶◁

いよいよ秋も深まり、今めでたく文化祭の幕が切っておとされました。

さて、今年から、文化祭の名称を、五稜中学校のシンボル・フラワーにちなんで「桜花祭」としました。

新しい「桜花祭」にふさわしく、マンネリを打破して、創意に満ちた文化祭を、生徒全員の手で築き上げていきましょう。

(生徒会副会長 谷口 雅亮)

一年学年館

学年を越えた交流を

一年生にとって、初めての文化祭だったので、どのような内容で、どのように組立ていくのか、わからない事はばかりで不安だったが、その反面、期待と興味でやるき充分、皆もそのようだった。

初めてと言う事もあつて、皆に参加してもらうために、その事を中心に相談を進めていった結果、はがき一枚分の大きさで、自分の似顔絵と、簡単な紹介を書いてもらい、それを展示することにした。展示物はそのほか、模造紙一枚分で、各組それぞれの特長を、書くことにした。

皆それぞれ工夫し、文化祭の前の日までにはでき、展示した。

文化祭当日、やはり教室「喫茶店」や「若者の部屋」等にかたまり、一年学年館は、人氣が、なかった。が、一年生は、見に来てみたいだった。

内容としては、なかなかおもしろいものもあったが、似顔絵が、少女マンガ的なものが、多かったのが、残念だ。

それと、一年の学年館だったら、一年生しか入らない。他の学年も自分の学年館しか入らない。もっと違う、学年のも見に行つてほしい。つまり、学年間の交流をさかんにしていこう。

(工藤 真記)

二年学年館

ワン・パターンから脱皮を……

学年館という場所は、毎年相も変わらずというある程度の必然性をもったような所で、文化祭の中では、良くいえば最も伝統的、悪くいえば最もワン・パターン。『マンネリ』といった地位を確保している不変的な展示会場、といったイメージが、かなり強かったようにも思える。学級プロフィールにしても、所詮クラスの数人が着手しているだけで、運営方法も完全なるワン・パターン……

生徒が全員参加しよう／何らかの形で個人の考え、その他を発表しよう／これぞ「手をつなぎ、共に築こう 桜花祭」今年の二年生はこれでいくことにした。こちらから出したアンケート、その他について、学年の生徒全員がノート大の色とりどり（でもないが）の紙に自分の考えを書いて展示する。この点では生徒の全員参加成功したようだ。学級のプロフィールはいつものようにワン・パターンであったが……

内容が変わっても当日は相変わらず……。展示方法に原因があるような気がする。やはり雰囲気的にはワン・パターン。だが、もしかしらこれが学年館の限界なのかもしれない……。いや、そんなはずはない。展示方法に工夫が足りなかったのだ。今ので限界なんだなどといっているわけではないはずなんだ／改善する点はまだまだある。ともかく今までは違った観点から物を見つめるよう努力しよう。ワン・パターンをなくすために……

（広川 裕・記）

三年学年館

全員の手による作品

（初めての試み）

今年の学年館（学級プロフィール）はとて有意義なものだったと思う。今までは、数人の手によって作成されていたものが、クラス全員が参加するように変わったし、模造紙の枚数もふえた。

事前の計画や準備に時間が長くなりすぎたのは、いけなかったが、内容は実に充実していたと思う。プロフィールの作成にとりかかる前に何度か学年委員会で話し合いがもたれたが、各学級のアイデアはとてすばらしく、最後の文化祭への意欲がはつきりと表われていた。

当日学年館を訪れた人はみな楽しそうだった。（クラス全員で書いたのだから当然だろう）

今までにないすばらしい学年館だったが反省しなければならぬ点もいくつかあった。事前の準備に時間がかりすぎたことや、会場の管理がすみずみまで行きとどかなくて会場がきたなかったことなどである。これらの点が来年の文化祭の時に改良され、いっそうすばらしい学年館になることを望みます。



（高橋 修 記）

若者の部屋

プログラムに染みこんだ胸騒ぎの思い出

僕は、去年も「若者の部屋」に前座同様の格好ではありましたが出演しました。その時、主役である三年生たちに送られる、鳴りやまぬ拍手と歓声を、ひとかけらのねたみ根性と共に耳にしっかりと刻みながら、ひそかに心中深く誓ったのです。来年の今ごろは我がひのき舞台じゃー！

その誓いと共に僕は桜花祭を迎えたのです。

まず、かねてより考えていた。プログラム作成に、とりかかりました。去年はしっかりしたプログラムがなかったため少々だらだらと時を流した感じがあったからです。出演者五人が、慣れないボールペン原紙と修正液の悪臭を相手に奮戦しました。全部で二十五ページ。西洋紙ではありませんが立派な本です。プログラムを綴じる際に僕が一人で単純作業を繰り返してると、一人の友人が無言のうちに教室へ入って来、無言のうちに手伝ってくれたのを覚えています。その後、彼につられるように、二人、三人と手伝ってくれ、しまいには十名を越す大群で作業をしました。うれしかった。ありがとう。

数々の苦勞を乗り越えた上で開かれた「若者の部屋」主催『ひろさんじゃあこんさあと』。豪華ゲストに、世界をまたにかけのギタ



ー弾きのまさ博君、天までとどく薔薇の歌声まさ亮君、ピアノを弾くためにこの世へ送られてきた宣まさ君、三人の巨匠名付けてスリ

ー・マーチ・チャンズを迎え、会場はもう興奮の茶壺いや増嶋と化したのでした。「こんなにいいすばっかり用意してうまるのかしら」なんていう誰かさんの心配も吹き飛ばして、立ち見（聴かな）のお客さんがどつさり。ううう、こうやって鉛筆を走らせているだけで、あの時の興奮が僕を襲うのです。いんちき日本語と知りつつも、「ファイバー」を合言葉に練習をし、文字通りファイバった「若者の部屋」楽しかったなあー一緒に歌ってくれたあなた、ありがとう！手拍子打ってくれたあなた、ありがとう！とつても楽しかったね。

最後に、来年へむけて残された課題について記しておきましょう。「ファイバー」の妨害となる、礼儀をわきまえない客への対策、これです。これを克服して来年さらに飛躍することを、この「部屋」に全精力を注いだ者の一人として、願ってやみません。

（竹内宏幸 記）

五稜小劇場

「小劇場」を創設して

— 木下順二作「夕鶴」を上演して —

十月十二・十三日は、まさに小劇場参加者にとっては、心に残る文化祭でした。一度は廃止となったが、会長さんらの希望もあり、実施と決まった瞬間から、しっちゃんめつちゃんかな活動が始まりました。

まず、何をやらねばいいだろう？ 大論争の上、一票差で「夕鶴」と決まりました。キャストは？ これもいろいろもめた後、文化祭十日前ぐらいに次のように決定しました。

つう …………… 永井さん (三年)
 与ひよう …………… 高谷君 (二年)
 惣ど …………… 吉田君 (一年)
 運ず …………… 浦生さん (三年)
 子供たち …………… 寺岡君、和泉さん

藤沢さん、古田さん (一年)

残りの人は裏方として協力しました。特に、整美委員会の皆様には、舞台づくりや道具づくりなど、大変協力してもらいました。

さて、当日、練習時間や準備の不足がたたって、いろいろなハプニングがおこりました。配役の一人が、台詞を忘れて、一ページ近くもとばしても、しらぬ顔をして続け、さすが迷優ぶりを発揮し



ていました。また、照明がなくて、代わりにOHPを使ったり、機織りの効果音がうまくとれず、ごまかしてしまったり、とにかく出演者も裏方も数々の失敗をくりかえしながら、どうやら二日間を無事に切り抜けました。特に二日めの上演は、観劇にいらした先生から「生徒の手で、ここまで仕上げたのは、とっても立派です」と、うれしいおほめの言葉を頂き、関係者一同感激しておりました。

今から考えると、全体的に配役の演技も、衣装や舞台作りなど、ずいぶん未熟なところがあつたと思います。しかし、生徒が中心になって、あそこまでやれたのは、やはり成功したと言えるのではないのでしょうか。もし、私たちの「小劇場」が成功したと言えるのなら、それは整美委員、鈴木先生、室先生等たくさんのご協力とご指導のおかげだと思えます。

今年出演した生徒の中から、もう「来年は何をやるか」とか、見学してくれた人の中から「来年は、私たちの手で……」などと、意欲的なことばが聞かれます。一・二年の皆さん、来年は私たちの「小劇場」を、さらに立派に発展させてください。

(村山雅美 記)

喫茶室

喫茶室よ、永遠に！

昨年、「汚ない」、「不衛生だ」などいろいろ言われ、たいへんな非難を浴びた喫茶室。今年は、この問題をどう解決すべきかが最大の焦点だった。

九月の下旬、そんな悩みを抱えながら、本格的な準備に取りかかっていった。問題解決の策として、昨年徹底できなかったゴミ袋を各テーブルにつける、入場者の整理、また新たに女子手伝い各自にテーブルを一つずつ受け持たせるなどのことを決めた。それから、当初の考えでは、女子手伝いは三年生のみとしていたが、人数不足のため一年生から数人選ばなければならなくなった。装飾の方は、やや遅れが見え、それに加え、カーテンなどの不足からややムードが欠けた。

いよいよ当日。開室はじめはそうでもなかったが、だんだん入室者が増え忙しくなった。そのため、計画通り事が運ばなかった。終了まぎわは予想以上の人が押し寄せた。しかし、手伝いの人が一生懸命がんばったので、なんとかさばけた。こうして二日間が過ぎた。ふり返ってみると、清潔さでは昨年より上だったと思う。が、まだまだ汚ない。忙しくなると特に目立つ。カウンター、机、ゴミ袋などなど。また時間が非常に短かった。不満はたくさんあるもののなんとか終えた。手伝いの皆さん、協力ありがとう。最後に来年の文化祭大成功を祈ります。喫茶室を永遠に！！（谷口雅亮記）

五稜中の歩み（図書委員会）

歴史は浅いが、豊かな歩み

図書委員の文化祭の仕事は、五稜中の歩みを中心に、その当時の社会の様子や事件、生徒会誌の陳列や閲覧をすることだった。

そのため、五稜中の歩みとその当時の社会の様子や事件の史料を捜し、生徒会誌を1号から17号まで集めた。

五稜中の歩みとその当時の社会の様子や事件は、史料に基づいてマジックで模造紙に書き、年表にした。

文化祭の日、三年A組でそれらを展示紹介し、生徒会誌の陳列やえつ覽をした。五稜中の歩みには先輩達の運動の記録などを入れ、その当時の社会の様子や事件には流行歌などを入れた。

また、漫画友の会が一緒だっただけに、これらを見てくれる人もいるようだった。この二日間、なんとかなったようだ。

しかし、全体的に見ると工夫したほうが良いと思う所や、つけ加える必要があると思われる所があったので、自分としてもあまり満足しなかった。これからは、このようなことに気を配れば、良くなるかもしれない。

来年の委員は文化祭でどんな仕事をするかわからないが、委員の仕事は委員自身で決めたほうが良いと思う。

それと仕事をする時は、皆の協力が必要だから怠けないことも必要だと思う。

（藤田延雄 記）

獄門教室

たたりの証明

「三年後の文化祭」という中で、また今年もお化け屋敷ができないことを聞いた。「それじやろうそくを立てて、怖い話をしたら面白いんじゃない」という話が出たので、早速先生に問い合わせた。「ろうそくを使わない」「お金をかけない」ということを条件に、先生に許しを得た。

計画は、トントン拍子に進み、かつ内容がお化け屋敷のようになっていく。教室を暗くするために、ダンボールを集める！これが一番苦しかった。冷たい目で見る人、また協力してくれる人もいた。世間の目は冷たかった……と実感！

当日、若者の部屋に傾くのではないかと心配だったが、思ったより人が入ってくれた。一年生の中で「あなたの……髪が欲しい」で泣く者、ゴリラが突然出てわめく者も出た。

皆さんのことばで「男子禁制」これは、男子が入って「シラケー」なんて言われると、やっている側で面白くない、「なぜ怪奇を語る会が、お化け屋敷になったのか」は、あくまでも怪奇を語っている、お化けが出るのは中の雰囲気作りです。

最後に、みんなはお化け屋敷ができないと思っていた。しかし、今私たちができることを証明した。来年もやって下さい！

(鈴木千賀子 記)

棋力コーナー

気楽な文化祭を

今年の文化祭は、毎年やっているものとは違い、生徒たちの手でもやれたものである。

しかも今年初めて、棋力コーナーというものの責任者をやらせられました。苦勞することは別になく、ただ、先生の言うとおりにやっただけである。準備は、先生がしてくれて、あとの計画、その他は、自分の思うがままにやってみました。

当日びっくりしました。棋力コーナーが、な、なんと、食堂変わりにされてるではありませんか！そこらへんには、パンかすだとか牛乳びんのフタなどが、散らばっていたのには本当にまいりました。でも、ぼくは、みんながものを食べながら、将棋、囲碁を楽しんでいるので、目をつぶりました。でも、みんながやり終った後片付けていかなければ、目をつぶりきれませんでした。

二日間の文化祭も終り「ホ」っと思いましたが、みんな好きかっさにやった文化祭がこれで終るのかとは思いません、ぼくの、「ホ」っとしたものは責任者が終ったものであり、行事が終った気持ではないからです。

ぼくとしては、三日、又は四日間くらいやりたい気持ちでした。でも、責任者という言葉はいつ聞いても、荷の重い言葉です。

来年度からは、もっと気楽な文化祭をしてほしいものである。

(沢田 隆生 記)

五稜サテライト

好評だったクイズ・シランプリ！

我々サテライトでは、当初レコードコンサート、クイズシランプリ、ワイーリングアップルを計画し、数週間前から企画会議を重ね、クイズ十曲、ゲーム出演者の募集を始めました。集計した結果、クイズ十曲、ゲーム出演希望者数名で準備は先生方の協力もあって進んでいきました。放課後遅くまで残り、クイズ十曲の録音、問題の作製、機械の調整など前日まで続けました。

初日、当日は12時50分ごろから開場、最初は入場者がまばらでしたが、時間がたつにつれだんだん入場者もふえ、クイズシランプリを行う頃には満員の状態でした。ゲームでは、一年生チーム、三年生チーム、先生チームの3チームが出場し競いあいました。解答では（一先生）発電所の記号を燈台と間違えたりで、笑いの中で無事ゲームが進み、結局三年生チームが優勝しました。

二日目、当初、ワイーリングアップルの装置を作る予定になっていました。が、時間の関係で、プラカードで表示する方式に急速変更しました。ところが計画どおりにいかなかったのです。それは出演予定者が集らず代理を捜してくると、相手がいないといった具合で結局「中止」ということになりました。結果は初日は成功、二日目は失敗に終わりました。また来年は今年のような意見が出ないように充分企画をねり、頑張ってください。

（佐藤公彦・記）

漫画友の会

好評だった漫画研究同好会

このわが漫画友の会は、会員の合意を得て、マンガ研究同好会として、発足しました。本当は、マン研だったのが、途中でマン友に変わったため、作ってあったポスターを直すのに、苦勞しました。他に事前のできごとというのと、当日、会場に流すBGMのことについて、ほんと、副会長との間に論争があったほか、大きな出来事は無く、一人当たり、イラストを二枚ずつ書いて来る事に決定、その中から、選りすぐったイラストを、文化祭の前日に、会場の壁に張り、評価はどうであろうかと、胸をときめかせながら、文化祭当日を待ったわけでありませう。

そして、当日。食堂から会場まで一気に駆けおいて、BGMのボリュームを最高にすると、少しずつ人が入って来まして、三十分としないうちに、会場は、黒山の人だかりとなったのであります。そのほとんどの人が、立読みコーナーの本を読みに来ていたようなのが少し残念に思います。でも、作品の方も、非常に好評で、見る人の口から、ため息がもれていました。（ホントかなあ）

このように、当日の評判はかなりよかったのですが、作品の量が少なかったため、来年はもっと多くしていきたいと思っています。また、教室を一つ借りて、座談会などをやってみたいなあ、と思っております。いかげんスペースがなくなってきましたので、さようなら。

（会長 加藤豊之 記）

栄誉を讃える

— 受賞一覧 —

【文化部門】

◎児童生徒席書大会

函館商工会議所会頭賞

- 一年 藪 一之
 一年 新保 和代
 二年 加藤 琢朗
 二年 上島 美佳
 三年 柏谷 博一
 銀賞
 一年 石井 智子
 一年 小上 陽子
 一年 北村 友佳
 一年 播磨しのぶ
 銅賞
 一年 金浜 彰子
 一年 今岡喜久恵
 一年 岸田 顕子

◎日本銀行学生書道展

- 佳作
 一年 寺田 孝行
 一年 佐々木貴子
 一年 藤沢 晴美
 一年 島中 博史
 一年 大谷 仁
 二年 浜本 忍

◎NHK第三回書きぞめ展

- 秀作
 一年 藪 一之
 佳作
 一年 寺田 孝行
 秀作
 一年 藪 一之
 佳作
 二年 上島 美佳

◎全国青少年読書感想文コンクール

- 。函館地区入選
 一年 藪 一之

「翼は心につけて」
 読んで

三年 野本 卓也

「ジョニーは戦場へ行った」
 を読んで

三年 田中 誠至

「リバーズ」を読んで

。北海道地区入賞

優良賞 田中 誠至

◎北海道吹奏楽団体コンクール

。函館地区大会

B編成 銀賞

◎第二十四回発明工夫展

奨励賞 二年 会津 信行
 入選 一年 尾山 弘邦

◎第三回全道小学生立体造形展

金賞 一年 尾山 弘邦
 銀賞 二年 浄土 洋
 銅賞 二年 齊藤二三子
 二年 山本 真弓

◎第二回函館地区小中学生珠算大会

中学校の部

。個人総合

優勝 一年 齊藤由美子

◎函館信用金庫理事長杯

。中学校の部

。個人総合

優勝 一年 齊藤由美子

《読み上暗算》

優勝 一年 齊藤由美子

◎日本学生科学賞

優秀賞

「オオバコの葉脈と

葉の成長」

一年 鳴海ゆかり

一年 内田 文恵

「パラシュートの形状と降下状態のかかりについて」

三年 佐藤 公彦

学級紹介

【二年A組】

サスペリア組

(けつして一人では
入らないで下さい。)

一年A組は、男子二十二名、女子二十名の先生も逃げだすほどの恐ろしいクラスである。なぜか?という、一年A組の中におかまが数人、はいっているからです。その数人のおかまの名前は、総務部の人しか知りません。

では、一年A組の学習態度は、いかがなものでしょう。ベルが鳴ります。と、教科担任の先生たちは恐怖に恐れおののくそうです。「きょうもいびられるのか」と、いう思いでやっと一年A組の前に来ました。あんのじよう、黒板にはいたずら書き、みんなは、ワイワイガヤガヤ、まるで第二次世界大戦のようです。とても勉強どころではありません。しかし、先生が一声ほえると、バタツと、静かになります。一年A組のみんなは、いつも騒いでいるけれど、とっても頭がいいんです。(ウソです)一年A組のみんなは、「数人のおかま」を除いてとっても顔がいいんです。(じょうだんです)

でもこれだけはほんとうです。一年A組のみんな

は、明るくて、元気で、ちよつぱりいたずらっけがあるけど、とてもいい仲間たちです。球技大会の時でも、合奏コンクールの時でも、みんな協力しあって、ほとんど賞をとりました。各委員も、一年A組をよりよいクラスにするために、困難にも負けず、一生懸命がんばっています。

次に先生のことです。おくさんの好みのピンクのワイシャツを、毎日毎日着て来て、すぐに、「バカモン」と、「勉強せよ——」と、言うので、気持ちが悪々おちつきません。それに、給食の時間、女子からもらったみかんを、朝市に売りに行ったりして、とてもガツイのです。

早く新婚ホヤホヤからさめてくれないかな……。

終わり

と思ったけど、やめめた、なんせ原稿があまりすぎたから。ウ——
なにか、かこう。

一年A組の休み時間は、第三次世界大戦そのもの。机はひっくりかえり、本やノートは、宙を飛び、教室はさかさまになっていて、もうそれは、富田病院の特別室のような有様です。一度入ったら、もう二度とは出られない恐ろしい所。それこそ一年A組なのです。

けつして一人では入らないでください。

ギヤ



(西村・山崎・古田・記)

【二年B組】

盛者必衰

Y探偵へ

五稜中学校の一年B組のことを調べてもらいたい。Xより

X氏へ

依頼された件について、早速とりかかります。
Yより

報告書

○月△日×曜日

一年B組の教室をのぞいてみた。まだ授業が始まらないのか、悲鳴や気色悪い笑い声、机椅子が倒れる音……etcが響きわたり、あるものは、自分がプロレスラーになったつもりであばれる数人の男子。あちら一つ、こちらに一つと女戦士（アマゾンネス）達の井戸端会議（男子も数人）マラソン大会は終わったというのに、所せましと走り回る男子数人。しかしいつたいこのクラスはどうなっているんだと、教室の中を見まわした。

廊下側の壁に賞状が数枚はつてある。後ろの黒板には、学級新聞がはつてある。聞くところによるとこの新聞、このクラスの図書・



資料

担任 林 俊夫 教諭

生徒数 四十名（男子二十一名 女子十九名）

男子生徒 明朗 活発 勇敢 容顔美麗
女子生徒 明朗 やさしく 静か 容顔美麗
（男女共、一部誤差あり）

生徒会役員 書記と会計が二人、共に男子
勉強 定期テストには、常に十番以内には
三人は必ず入っている。平均点も学
年上位だった・・・。

体育（男子）体育大会一位、水泳大会四位
マラソン大会二位

体育（女子）体育大会二位水泳大会一位
四百M R新記録、球技大会一

位、マラソン大会二位

体育（総合）体育大会一位、水泳大会三位
マラソン大会一位 以上

（協力・金沢正樹 文責・四辻喜紀）

〈学級目標〉
・皆で協力し何事
にも責任を持とう
・自主的・積極的
に努力しよう

【二年C組】

人事を尽くして 天命を待ったクラス

「人事を尽くして天命を待つ」――

これは、私たち一年C組のスローガンです。言葉はとてもいいのですが、そのことを実際になしたとげたことはあまりありません。一学期の体育大会にしてもみんなやる気をもたなかったし……。

二学期になって合奏コンクールがありました。その時、みんなやる気もち、放課後や学活の時間などを利用してみんな一体となって一生懸命がんばりました。

自由曲と課題曲の二曲があり、課題曲は音楽の先生がいくらか教えてくれて楽でしたが、自由曲は私たちが作らなければいけません。放課後毎日練習しました。実行委員の六名が先頭になってやりました。最初はパートごと。委員六名がソプラノ1、ソプラノ2、アルトに分かれ、一人一人教えてくれました。だいたい揃うと三つのパートで合わせます。途中で速くなり、指揮者も委員の人たちも困りました。そんな時は委員の中の一人がほうきを打って、リズムを注意したり、メトロノームであわせたこともありました。担任の板東先生も、毎日カセットを持って来てくれて、毎日の練習のようすをふきこみ、みんなに批評したりもしました。

発表を胸はずませて待っていました。係の先生が舞台の上に立

ちました。

いよいよ発表。

「優勝、一年C組!」と言った時、私はとなりの人と顔を見あわせ、感激のあまり、二人で手をにぎりあっていました。みんなも手をたたき、とてもうれしそうでした。

みごと優勝したのです。勝利をつかんだのです。その上、五稜中学校代表として、「函館市中学合同音楽祭」に出場する事になったのです。今までの練習の時よりみんな真剣でした。わからない人がいればみんなで教え合い、助け合いながらやりました。そして無事「音楽祭」を終えたのです。五稜中学校代表として恥ずかしくないように自分たちの力で音楽祭を終えたのです。クラスの友達が力を合わせて一つの事をなしたとげたのです。私はそのことをなによりも誇りに思います。

誇りに思います。

「人事を尽くして天命を待つ」――

この学級スローガンは二学期の文化祭において初めて達成されたのです。

(馬場 貴子・記)



【二年D組】

我らがD組の姿を！

私たち一年D組の真実の姿をお伝えします。

「ジリリリリン」始業のベルが鳴ってもまだ騒いでいる人がいる。みはりの合図でタイミングよく着席。このチームワークはバツグン！。ただし、そのチームワークがもとで授業中もワイワイガヤガヤ。

さてここで一人静かに、人物鑑賞をしてみましょう。

- ・チリ毛の学者 (H・W)
 - ・日本一の文学者 (T・K)
 - ・天才バカボン (T・Y)
 - ・小さな大親分 (Y・T)
 - ・涙製造会社 (F・U)
 - ・肉づきの王者 (Y・F)
 - ・スポーツ万能 (Y・T)
- 他にも、アンコ腹、ギョロ目、ニキビ人間、などなど・・・。
- このように、おもしろい人ばかりなので、休み時間はいつも笑いに満ちあふれています。
- と、いつてもやはり時々はけんかをする人もいます。でもすぐまたもとどおりに仲なおりますのです。それが一年D組なのです。

◎男子について・・・。

- ・二十名（ハンサムぞろい？）
- ・スポーツ万能 体育祭りレーでは、見事第一位！
- ・成績はまあまあ。

◎女子について・・・。

- ・二十名（美女だらけ!?）
- ・スポーツ一部万能 バスケットで大活躍！
- ・成績は???。



◎わがクラスを受け持った不幸な先生について・・・。

- ・名前 大久保雄治先生
 - ・通称 メガネのアラン・ドロン（?）
 - ・年令 二十八才（新婚ホヤホヤ）
- このけたたましいクラスを相手に、毎日「はい静かに！」「はいよく聞いて！」と、声をからしているのです。

THE END

（藤村 由紀・記）

『二年E組』

『我らの英雄(一名)』

ノブラス 十八十の瞳

一、まずは酒田先生について

☆あ、あの大きな声を聞くと(たまに)あくびをしている○○

君も、鼻ちようちゃんがバチツとわれるとか!

☆あまりハメをはずしますと、

幻の桜げんこつ、桜けつとばしが御披露されるかも・・・

まだ経験者ナシノホッ!

☆ティープレコーダーもわからない

非現代的だけど、とても優しい、

みんなのアイドルなのだ!

二、男生徒について

☆人数二十名+黒猫一匹(二十一名)

☆成績優秀、スポーツ万能(ホトンド例外)

☆とっても優しく、ユーモアたっぷり三枚目(例外ナシ)

☆体育祭、球技大会、水泳大会、みな最下位とそれに近いとこ

三、女生徒について



☆人数十九名(みな人間)

☆成績優秀、スポーツ万能(例外ナシ)

☆おしとやかで女らしい(まず全員例外)

☆体育祭、優勝、球技大会、準優勝、すばらしい!

四、全体的に

☆文化祭合奏コンクール残念ながら最下位

☆カラーデнкаの一Eであります!

五、各教科の学習の様子は?

国語♡えーとーは! されば○○とは何ぞやノの二百!

社会♡床に正座(男子一部)な

んと女子にも二段階ダウ

ンがいたとか!

数学♡走れノ前の黒板、後ろの

黒板! いっそがしー!

理科♡記念すべきジャンピング

パンチ第一号がナント○

○君ノ名前は(笑)です!

英語♡爆笑ノサンデー、マンデー月印象的だったナリ!

五、給食時間の状況

☆東大おかわり科一名ノ(口からあまるものナシ)

☆パン&みかんぶつけ戦争が時々見られるノタ!

六、最後に一年E組全員が語ります!

『私達は幸せでした! ナーテ ジョーゲン!』

まじめに、『一年E組は永遠に不滅です!』(木村 公一記)

【三年A組】

ザ・クラス

われらのクラス、2年A組には変人、奇人など変わった人材がたくさん育ちます。育つというのは、まだ完璧になっていない奇人変人などが自然に生まれるという、とても異常的なクラスなのであります。つまり、わが2年A組に來るとどんな人間でも変人、奇人になってしまふという、とてもこわいクラスなのでもあります。我々はこれをショックーあるいはデストロンと呼んでいます。我々ではその犠牲者の代表的な人たちを紹介しよう。

犠牲者名	おいたち
※ミスター田賀	イスラエルの貧しい農村で生まれる。その後風呂屋で2年間修業を積む。そして1978年ついに2Aに入級。ボーイマンとして働く。
※チャーリー石黒	1964年指揮者の長男として生まれる。今日では給食友の会の会長として活躍する。
※クインタキント	アフリカのコンゴのボンゴ族の酋長の子として生まれ、3才の時、家出をする。9才の時、政治に興味をもち新不自由クラブに入る。そののちドラフト指名第一位で2Aに入級する。

※ミス・ブラウン	彼女は、そうぞ知つての通りクインタキントと同じコンゴの生まれである。彼女は、3才の時ブラウン病という喉の病氣にかかる。その声はまるで笑い袋のように複雑な声になってしまった。今でも後遺症が残っている。
※スベーステンタクルズ	1964年、火星で生まれる。その後、南極に上陸。1970年、南極観測船に乗り來日。昨年、五稜中に入學。現在は会長として活躍。最近では「手作」をテーマソングにがなばっている。

というように、我々2年A組は、恐怖と未知にあふれたクラスなのである。

最後に、「決して一人では來ないでください。アーメン」。



(谷口 板谷 中村・記)

【二年B組】

ドキュメンタリードラマ

「その実態をあばく」

むかしむかし、あるところに男子十九名、女子十七名の貴族が住んでいました。それがいつのまにか下品、いやらしい、卑怯、H、等々すべての言葉に当てはまるけどももの集団となっていたのである。これは二Bだけが知っているなどである。では本題の「二Bの素顔」はじまりはじまりー！

ジリリリリリリ！

ベルが鳴るとすぐ学習態度を整える。そして教室はシーンとなる。なーんてことは絶対にありえない。ベルというモノは徹底的に無視する。先生の来る直前に生徒の「来たノ」という叫び声とともに何事もなかったように静かになる。

しかし、時々失敗に終わる。まだまだ修行が足りないようだ。トウゼン先生が来た時から授業が始まると考えているヤツは一人もいない。とにかく授業中は恐ろしい。(何が恐ろしいかと聞かれたら笑ってごまかそう)いろいろやっているうちにとにかく授業に入る。

一時間目ー学活、日ごろの元気はどこへやら。誰一人として意見を言おうとしない。この時間は立派な？議長が発狂する恐怖の時間



なのだ。

二時間めー数学、どうもこの時間はあくびが出てしょうがない。もしかしたらO先生のやさしい？声のせいかな。

三時間めー社会、この時間は教科が定まっていけない時間。先生の声をテッテイ的に無視し、後ろの方では必ず何かが……。

四時間めー英語、このズカンになると突然みんなのナマリが出て困るんすよねー。N先生。

給食時間ー男女ともに生きている喜びを感じる時間。給食委員のK君の美声で「いただきますーすー！一同黙々と食べ始める。

昼休みー休み時間は二Bの天下。男女ともに野性の叫びを発してあばれまわる。

五時間めー理科、持病に悩まされているA先生が執念で教える時間。一同、尊敬のまなざしで見上げるのだ。(流し目で)授業の内容についてはいっさいお答えできません。あしからず。

六時間めー国語、この時間はみんないい子になつて静まりかえる。えらいでしよう？S先生。

だんだんネタがなくなってきたので担任について書かせてもらおう。我々の尊敬する？大平先生はたいへんやさしくないので。恐怖の定期テストが近づくと口ぐせのように「勉強しろ！勉強しろ！」しかし我々は全然無視。だが結果はバツグン！(点数を聞かれたら笑ってごまかそう)

これで二Bがどのようなクラスかということがわかったと思いますので以上でジエントとしていただきます。(大場 史司・記)

「三年C組」

チャレンジしよう

二C

○月×日△曜日

「ジーーーー」。八時二十分のベルが鳴る。教室にいる人約十五・六人。「学級閉鎖だ」と、わめく人二・三人。やがていつもの靴の音。「スカトン、スカトン」。朝の学活。遅刻者なんとX人。

(クークー)一、二、三、四時間目、異常なく過ぎる。給食時間、(ベチャクチャ……………)

昼休み、必死に宿題を……………。

五、六時間目、あくびをこらえる人多し(ある人は堂々と……)

帰りの学活は日誌を読み連絡、先生からのお話と簡単にすんですぐ掃除。

今日も平凡に一日が過ぎた。

……………しかしその実態は？

。新・珍人類Y・H君。

「○×動物園から来たチンチンです。」なんと新しい人間型パンダ



チンチンがいるのです。

。行事の〈賞状獲得数〉

二Cには賞状が、一・二・三……………七枚あります(学年一位)。しかし、そのうち全部がスポーツ系統、文化系は一枚もない。C組はスポーツ系が強く？文化系はめっきり弱い。とのうわさも……………。

。二Cの金庫「阿部雅朗先生」

なんと阿部先生は、一応担任であるが、別の使い方(?)として二Cの金庫。例えばいつかのある日、X君が「……………の演奏会に行きたいけどお金が……………」と、そしたら「お金をから行っておいで。」となんと〇千〇百円も、この「阿部金庫」を使って二Cの経済状態が保たれている……………?

〈これからの二Cの方向〉

学習時、行事への参加など、他人任せにしないで、自分からやっいていく意欲を持つとう。そして協力性を……………。学級目標にもあるでないか。この課題をなしとけてこそ、一つの立派なクラスができるのでは？二Cの諸君、早くこの課題をなしとげよう!!

(杉山 菊池・記)

【三年D組】

（秘）調査報告書



依頼人…全ての神仏

調査内容…二年D組とは、いったいどんなクラスなのか

を極秘（する前からバレてる）に調査せよ。

以上

……という訳で私こと金田一耕助平はこの調査を始めたのです。

○報告その一…人口 男子一九名…内訳…宇宙人一・僧侶一・家畜一・〇〇児レスラー一・大陸一・漫才師多数・美男子少数。女子（医学上）一六名…内訳…男子 $\frac{1}{2}$ ・タレント $\frac{1}{2}$ ・世間のさらし者 $\frac{1}{2}$ ・美女…いたっけ？ 特別出演…永田裕三先生閣下。

（十二月現在の記録）

○報告その二…十二月の家族会議より…

— この組の男子はどんな？ —

一郎 明るすぎて普通の状態を通り越してる。非常識。

二郎 積極性がない。学級の歌は作るけど。

（学級の歌—毎月文化部が詞を作り、曲をつけて、毎朝授業の前に全員が一つになる為に元気に歌う歌）

A子 言うこと、すること、全部幼稚。

B子 考えだけじゃなく、いやらしいの…とつても。

C子 たまにはその方がいいんじゃない？（同感と軽べつの声）

D子 雰意気がイヤーなの。汚らしいというか、なんとなく…。

E子 やりすぎるの。みかんつぶしたり、卵を蹴っ飛ばしたり。

女子は？

B子 みんな仲いい。悪いとこなし！

A子 （小さい声）おしゃべり。（一同笑い）

一郎 積極性がありすぎるんだよ。発言とか。

三郎 オトコマサリ。

一郎 そうそう、ウーマンリブなんだよ。

四郎 少しうるさすぎるんじゃない？

永田先生ってどんな先生？

F子 光った男の先生！（ワカルカナ？）

B子 生徒を信用してない。でもとても面白い。尊敬しちゃうわ！！

E子 二年の先生の中では一番いい。（一同同感の声）

B子 演説が長くて、つばを飛ばす。（笑い）

D組ってどんな組？

C組のA君 いい組じゃないかい。男女の仲がいいから。ただね、

悪乗りする人がいるの。（と言ってD組の男子を追いまわす）

☆結論☆互いに異性をののしり合ってるけど、組かえについて

聞くと、したくないと言う人がほとんどでした。男女の仲もいいよ

うだし、先生も人気があるよう。まあ二年生五学級の中では一番良

いクラスではないでしょうか。 調査報告以上

別に問題ないですか？

（金田一耕助平こと岡村クン・記）



「三年E組」 我らがテ物

クラスのこの一年

我々、2年E組は変わり者ばかりのクラスです。出席番号順にいくと、オカマ、オカマ、オカマ、クマ、ザシキ、角丸ハゲ、モンチツチ、タコ八郎、ベトナム難民、丸々ハゲ、取り得の無い男、ムキムキマン、おそ松君、天然パーマメガネザル、泣き虫くん、ガキ大将、ガマ、カツバ、続いて女子の紹介、横綱、未亡人、石炭、老婆オムツ、麗子像、マメタン、ケニア留学生、安西、中年、西横綱、引目、卯、女男オカマ、金太郎、カツバ、オタフク、取り得の無い女……etc。美男？美女？の集団クラスであります。

このデテ物クラスの今までの行動を話していききたいと思います。

まずスポーツ面では、体育大会男子1位、女子3位、総合1位。水泳大会、男子1位、女子1位、総合1位。マラソン大会、男子ムムム、女子1位、総合3位、というたいへん、優秀な成績を出しているのです。



おかげさまで教室には、輝かしい6枚の賞状がはられている。しかし、10月に行われた文化祭での合唱コンクールでは、この優秀なクラスがな、な、なんと、最下位だったのです。とにかくこのような例外もたまにはあります。

次に学習面では、国語の時間にはたくさんのお犠牲者がいました。なんとたつて正座/正座/でして、ひどい時には、教台の上にごつてりとすわらせられ、または給食台の上、ストープの上、などなど

etc.

まあこんなものでして、ほかにはと言いますと、そうあれは夏から秋にかけてのある晴れた日の英語の時間、あることでX君が先生にグラインド10周走ってくるように命じられたのです。

当然ならばふつう走ってくるわけがないのにX君ははじめに走ってきたのです。キャ〜〜スキテ!!

その時のクラスの人の言葉。「あいつばかりでネーカ?」とまあこんな状態でしてほかにまだいろいろとありました。

そしてこのようなクラスを受けているのは、先ほど出てきた、かの有名な鹿角令夫氏であります。

年齢、43歳(なおこれは推定です)、どこにもいない美男で、とてもやさしく(女には)、たよれる先生です。(全部ウソデス)とにかく、とってもグッドなクラスであります。おわり。

(ムキムキマン・取り得の無い男・アニメ・ケニア・記)

3年A組

担任 毛間内茂二



雑感

卒業生諸君の生きる未来社会においては、社会構造が複雑になり、文化が多様化してゆくと考えられます。普段は適性がありながら、ふとした機会に順応性を欠いていたために事態に対する適応ができなくて、何かと失敗するという場合もあると思う。人生とは、適性のあるなしよりも、運とか不運によって左右されるようでもあるし、それかといって全くの不適性ではどうにもならないように思えたりする。こういう「さまよえる適性観」の存在にはそれなりの理由があるにしても、やはりどこかまちがっているのではないだろうか。その最も大きな見落としは、人生に対して真剣に生きることの熱意をどのようにもっているか、そして熱意に対応しての努力をどのくらい払ってきたかが問題だと思う。諸君には不断の努力を惜しまず個性を發揮し、限りなく前進を。

(80+2) ? の瞳

作、つばい

さかえれ

れない。見ろでしょ。

先生「T。うるさいから後ろに立つとれ。」

(佐々木先生は、我々が二年の時の担任であつたせいか、授業中も我々とうちとけていたようです。

先生、お世話になりました。)

(数学) (対深栖先生)

先生「この問題がわかるものは手を上げれ。」

生徒「何? 上げれ?.....」

先生「方言は大切にすべきだ。」

(先生お疲れ様でした。)

他にも、ツジつまの合つ辻先生との授業もありました。とにかく我々40人は立派に成長したのです!?

(中谷・記)

まずは、我が担任を紹介しましょう。彼の話し方は、とても感情が込もっていて、終助詞を強くたくさん使うわけなんです。つまり、大事なことを言っているのです。また、彼は給食時間、他の組のどの先生より早く来...はしませんし、食物への心が行き届いていて、牛乳のふたもスプーンで開け、パンも丸かじります。この年では、いつバイ菌のために死ぬかわかりません。(きつい冗談!)とにかく、清潔の上にも清潔の精神を大切にしているのでしょう。というわけで、毛間内先生、お世話になりました。

(社会) (対佐々木先生)

先生「みんな、OHPを見れ。」

生徒「何? 見れ? 見れじや見ら

(英語) (対猪狩先生)

先生「D。」(勿論、呼び捨て)

D君「This.....」

早く卒業したいような気持ち。君達にもわかるかい、この気持ち。では……。

あつと言う間に過ぎた三年間。思い出の三年間。友よ五稜よバイバイ。

長いような短いような短いような長いような僕の足と同じくらい短い三年間。

義務教育九年間が終わった。これほど悲しくうれしいことはない。ウオー！

たいへん長かった三年間。やつと終わろうとしている。グッドラック！

在校生の皆さん、僕たちが卒業しても悲しまず、未来に向かってはばたけ！

後輩の皆さん、来年からは私達先輩を見習って、頑張ってください。

我が母校 五稜ヶ丘に 不滅なり。吾が面を 忘れむ時は 目をあけて

編集五稜を 見つつしのはせ。TIME IS MONEY.

(時は金なり) 思い出の 学舎の上は かすみ空。A・プログレの頂点 KANSAS!

永遠に 校舎にしみ込む 我が汗よ。批判なくして進歩せず。これと

ことも必ず反省。進歩じやゝ進歩じやゝ。

天野 勇二

安保 一人

荒木 和章

大久保俊幸

北沢 良

境 雄司

坂本 有

佐藤 公彦

佐藤 仁

竹橋 治夫

谷口 雅亮

俵 賢治

中谷 宣将

野本 卓也

中学校を卒業したら、無試験で高校へ行けるといいのに……。

「あつ」という間に過ぎた三年間。長いような短いような三年間。時を大切に。

我々は、ごく小さな一つの山を越えたにすぎない。！

三年間が過ぎた。これからは、鈍と根を大切にしていきたいものだ。

短いようで長い三年間もやつと終わろうとしています。皆さん、さようなら。

中学校の楽しい日々を、思い出の一つ一つを心にしまおう。

人間は無限なる可能性を秘めた動物である。故に、俺だって東大くらい……。

It is never too late to learn.

頭を使い過ぎると、僕のような頭(天然)になりますよ！

もう卒業か。三年なんて早いものです。ねエ。バイバイ、みなさん。

永遠なる五稜よ、おさらばじや！ひまわりのように明るく 明日へ向かつてはばたこう！何かいいことが……？

あまりにも早く三年間が終わってしまった。もう少し時間が、時間が欲しいヨ！

長谷川 聡

深田 健一

藤田 純一

藤田 延雄

牧 俊夫

松川 幹治

三橋 大二

百瀬 大

吉井 敬

浅田真奈美

阿部早起子

井川 幾代

伊藤佐知子

早かった三年間。これじゃあ先生の顔も
友達の名も忘れてしまふヨ!

もうおしまい? ずいぶんはやいなア。
でもいろいろあった、うん、ほんと。

学校でおやつを食べてはいけません。

内申書が悪くなるゾ。(ひと口メモ)

いろんなことがあったけど、なんとか
乗りきった三年間。いじけずくじけず!

三年間はあつと言う間に過ぎたけど、
これからはがんばりましょう。

三年間なんてつかの間。中学校生活に
悔いナシ!と言えはウソだらけ。

三年間なんとかがまんすれば、最後は
希望の卒業。後輩たちもこのいきで!

たくさんさんの思い出とともに、銀河鉄道
999で未来へ出発です。

長くて短かった三年間も終わりで。
受験は灰色なんかでない。色をつける

のは自分だ。ちなみに私は群青色!!
中学三年間をふり返ってみると、いや

な思い出ばかり浮かんでくる。エー
楽しかった三年間があつと言う間に過

ぎてしまった。残念!みんな元気で。
見慣れた部屋を捨てて行く……BYE

BYE BYE 私の母校。

内田 雅恵

加藤 至才

斉藤 悦子

桜井 佳織

佐藤 優美

沢田美智子

沢見 一枝

富田 範子

中野 矢美

畠山 幸子

福田 恵美

村上喜久恵

吉川 紀子

◆ 三年教科担任のことは ◆



「個人という存在」

佐々木 雄 幸

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。免角に人の世は住みにくい」草枕の一節だが、社会生活と個人生活のかかわりを云い得て妙なことばである。個人は自己の願望を集団の中で達成しようとするが、時には集団の秩序維持という立場から、その実現が阻止される場合もあり得る。だからと云って集団から脱け出しているの生活は無理である。集団(国家、地域社会など)は、その体制維持の為に法律、規則を設定しているが、そもそもは保守的な体質をもっているといわれている。源をたずねれば、案外に人間のもつ本質に起因しているのかも知れない。

このように考えてみると、万物の霊長と云っている人間というものとは意外に矛盾に満ち満ちた存在である。理知面と情意面、自己実現と現状維持等々その矛盾は多くの場面で表面化してくる。こうしたなかで、自己の願望を達成しようとするれば、その生涯を通じてその個人の自己制御力・つまり意志の力によるのではないだろうか。そしてそれは、自分をみつめることから始まるのではないだろうか。

3年B組

担任 八反田 稔



今は昔、小学校で習った読本の中にこんなのがあった。「雲間に月が見え隠れするある晩、数人の子供達が何となく空を見上げていたが突然一人が「月って随分早く動くんだな。他の者達も改めて見直すと確かに月が雲間を縫ってかなりの速さで動いている。一同月がこんなに速く動くものなのかと今更ながら感心して見とれていた。暫くして他の一人が「いやあれは月が動いているんではなくて雲が動いているんだ。この木の枝の間から見ると月は動かず雲が動いて見える。この木が動かぬから月は動かず雲が動いている事が判る。そう言われて再度改めて木の枝の間から見直してみると確かである。一同納得」というものだ。物事には、見かけの動きと真の動きがある。何を基準にして判断すべきか、基準が異なれば判断も異なる。吾々は常々何をもって基準にすべきかを見抜ける目を養わねばならぬのでは。心すべき事ならむやナワスレソ

三B賛美歌

時は昭和の五十三年某月某日、今日もまた、総勢四十一名のいとたくましく勇者と、いと愛らしき乙女たちに美しき朝がやって来たり候。かやうな朝、幾度ここへ迎へたことであらう。三Bすこぶるおだやかなり。

おだやかなる三B、紹介してまひろう。

昔印貨状六葉、男二葉女四葉。女やや強し。

男女の仲はいかほどか。人みな酒時、本性あらわすなり。酒のまぬ人、うかれ気分時あらわすなり。修学旅行時、男女いとむつまじき姿あり。故、仲悪くはなし。

学力はいかほどか。成せばなる、日進月歩、五十歩百歩、千里の道も一歩から、365歩の行進曲。不明。

組長はこのなにかしにあるか。

本通にゴルフ場いだきて たたなわる 大宮殿は

運ちゃんの息吹きに満ちぬ

五稜中に給食求め 新しき科学を究め

大ひなる生徒伸ばさむ

大ひなる八反田組長

給食にて候。はるばる飛むだぜマヨネーズ、茶色く飛ぶのは普通のパン、白く飛ぶのはスライスパン、私がささげたさやえんだふ、潮来の酢だこよちよつとかじれば、あなたにあげたチーズかへして、カツと思ふな思へば天ブラ、あれは三年前かびたパンを駅に残し、いやし心の未練でしゃふラーメン恋しひ三Bの宿、飛び散るジャムと牛乳の中に三Bの姿があった。とむでとむで×4.5の空中戦なり。赤い夕陽が校舎をそめてニレの木陰ではずむ声、夕焼けとむびはどこへ行く、お山のからすはどこへ行く、ごめむよだうやら日暮の時間だ、あなたと私の合言葉「三年B組で逢ひましょふ。」三Bは永遠なり。三B万歳!! 合掌…… (竹内宏幸 和田淳子・記)

FC会員募集中！ 会員希望者は下記の住所まで。現在、会員数は約八千名！皆のもの、別れのときがきた。

別れの杯を……

ワイワイワイワイ ソーノアノー
とにかく卒業なんだってヨ（かずへ）
後輩諸君！五稜中は永久に不滅である
だからボンカレーゴールドを食べよう！
さいならのひとこと。

後ろをふりむかずにもいつも前進してゆこう。

ワイワイワイワイ アノソノ
卒業しそこなっただってネ！

一言、この三年間ひじょうに無念だった。

明日という日は、今日の次であって前ではない。自分で明日を勝ちとれ……

九年間のなつかしき思い出を、顧みて
潤む目で、明日に希望を、たくして。

長いような短いような義務教育九年が
終わりをつけた。

一年、二年、三年とこの五稜で友とな
った人たちのことは、一生忘れない。

長いようで長くなかった中学生活、時
間がたつのは早い。さらば五稜中学校！

芦沢 雅彦

井下 貴順

石井 正美

石黒 新治

宇津野 隆

越後 正浩

大高 和久

大高 武人

大浜 武

加持 敏幸

柏谷 博一

金沢 勝

北川 直幸

みなさんさようなら。志望校めざして
さようなら。

男は誰もみな、愉快な兵士 卒業証書
をもらう人生 それさえあればいい！

1年生の時はとても長いように感じた
が今考えるととても短く感じる。

長いようで短かった3年間も終りだ。
この思い出をいつまでも心の中に……

男のロマン それは未知の世界への
出発！「悪友よ大志をいだけ。」

いつまでもあると思うな親と金。
なくなってからでは、もう遅いのです。

肌も凍てつく寒げいこ夏は週しに玉の
汗初心の大志一筋に生きる我らが相模道。

くよくよするな！明日は明日の風が吹
く。ハハハハ……

過去にこだわらず、今日、明日を見つ
める。それが自分の人生の旅である。

マソノーホホ……人類の手は90
%がたて形なのでした。ではお元気で……

後輩よ！今年こそ栄光あれ苦痛のあと
には喜びも、だめだと恐れず専念すべし。

あつ という間に三年間が過ぎてしま
った。なんとまじめだったのだろうか？

ながーい中学校生活いろんな事があつ

邑 達也

小口 洋充

佐々木健治

佐藤 隆義

塩越 英昭

高橋 啓樹

竹内 宏幸

信田 浩次

広川 品

益子 健

本川 朋一

荒木 聖保

乾 美香

たけどう旅立ちのときがきてしまった。
中学校生活3年間の思い出と未来への
希望を胸にいだいてさあ旅立とう。

ながーいながーい中学校生活もようや
く終ってひと安心。

ながいようで短かった3年間に今ビリ
オドを打つ、その一瞬悔いがないように。
みなさん勉強だけはしっかりやりま
しょう。あとで苦労しますヨ私みたいに!

3年間に於いて、今一番大切なもの。
それは確かな友情と思いだと思える。

中学校生活後悔しないようにがばって
ちょうだい。その見本は私なのです。

長くて短かった中学校生活。
悔いを残さず明日へ前進。

いろいろな思いを残して……さようなら。
白い花をそえて下さい

別れの言葉に……

今このときを青春のいちべいじに……

サヨナラ……また会う日まで……

Let's Begin! とび出せ青春。

私の好きな背い空 私の好きな白い雲
それらはすべて今この胸に。

青春という道はどこまでも続くけれど
私たちは歩く。何かをもとめて……

小林 美恵

小山百合子

佐々木有紀子

佐藤史貴子

坂本 高子

中川由紀子

中田麻里子

藤井 美樹

大和 広子

横浜富記子

吉村かおり

和田 重子

和田 淳子

渡辺 裕美

◆ 三年教科担任のことば ◆



クラブ気遣いの独言

長岡 正昭

学校の教師となつてから二十五年、ずっと音楽関係のクラブを指導して来た。クラブのない学校にいた時は、高校や一般団体の棒振りに行った。その長い年月、いろいろな世代の音キチ諸君と、自分の時間を割いて苦楽を共にして来て得たものは何かといえば、何か自分を賭けるものをもって(スポーツでも芸術でも)それに向つてひたむきに情熱をぶつけていくことのすばらしさ、また、同好の仲間の年令を超えた連帯(卒業しても、いつまでもその仲間の和は、くずれない)の強さというものを知ったことであらう。

ふしぎなことに、クラブを熱心に行っている者は、学業も立派にやっていることで、ふらふらしている者が勉強もだめで、クラブのせいにして脱落していった残念な者も数多く見て来ているが、殆どうまく行っていない。要するにビシッと張りつめた緊張感があるかないかの違いでないのだろうか。

青春は一度しかやらない。その貴重な一時期を無駄にすごさず、自分を賭ける何物かをもって、輝かしいものにし、すばらしい仲間を得て生涯の友としてほしいものである。

3 年 C 組

担任 深 栖 久 佳



実に早い三年間だった。そして、この三年間に、ほんとうに心身ともに大きく成長したことに感心させられる。

とくに、あとの二年間は、「二E」・「三C」を通じての、君たちとのつき合いたったが、「若い」私でさえ、かなりのとまどいをおぼえる位、年代のちがいを感ぜられた。

よくもこんなに「知恵」がついたもんだと驚かされることばかり。どれもこれも、今もって印象があざやかだ。

しかし、これからの道は険しい。

「知恵」も「体力」も「気力」もこれまでに要求されるだろう。とにかく、途中で投げ出すことなく、せいじっぱいの努力を望む。そして、それぞれの持ち味を十分に発揮して、心豊かな人間に成長することを期待します。

『深栖組不滅の証明』

角山文庫より本日発売

あくたれがわ賞受賞作品

『序の口』―『押忍』―これをもちまして挨拶に代えさせていただきます。

二年間の期限が切れると、我々深栖組も、解散しなければならぬ。考えてみると、結成されて以来の毎日とゆうものは、全く何を目的に学校に来ているのかを、忘れてしまっていた。活気に満ちていた。授業時間も休み時間も、フイーバーして、ギンギラギンに輝やいていた。何をするにも、みんないっしょだった。密告などとうゆものはなかった。いたずらの三大原則の、一致団結、一致協力、一致ガンバをモットーにして、何にでもアタックした。好きな人にもアタックした・・・アハハハハ、こころへんは笑ってごまかす。・・・とにかく、毎日が楽しかった。

修学旅行に始まって、文化祭で終った行事も、今思えばどれもみな懐かしい思い出として心に残っている。しかし、どうしたわけか、今年是不調で、賞状が2枚。ろくに練習しなかった合唱が二位だったのには、まいってしまった。これに対して、一同声を揃えていわく「これが余裕とゆうものよ!!」

文化祭での活躍は、スーパーマン並だった。毎日遅くまで雑品集めに精を出した。が、世間の目は、なかなか冷たかった。しかし、そんなことは、知らんぷり。ともかく、本番までいきまして、結果はもちろん大成功!!手伝ってくれた男子も、にやにやしながら、けっこう楽しんでいた。女子は、みえをはって化粧をしたものの、!!あんなのまけ!!・・・なかなか怖かったりして・・・

とにもかくも 今、ここで、我々の翔んでる行動力を証明できた。

深栖組は 不滅だ!!

(上田 正博・記)

昨日の非を悔恨しても始まらぬ。明日、これを念慮すべきである。

この学校を、住みよい学校になるように、作ってください。

とても、とても、とてもおもしろかった三年間。みんな、未来に向かってGO!!

中学校生活もロンノ己の未来に向かって、はばたけ高く、はばたけ強く!!

希望に満ちた未来が待っている。もう卒業だもな。日がたつのは、本当にはえーもんだ。

私はもう明日で学校ともお別れです。皆さんどうもありがとうございました。

諸君ノ夢を現実のものにするため努力しよう

頭がたかい!!

校長先生・諸先生・在校生の皆さん。僕の名前を忘れずにいてください。

今までで苦しかったことは、寸言を書くための「この」少しの時間である。

今、何も考えることができない。でもただ一言、さよなら。

十年後、はくの名前は全世界に知れわたるだろう・・・。

おれは男だ!!

穴水 光輝

石黒 勝利

伊藤 輝明

上田 正博

金浜 恵一

河本 勝美

工藤 茂

毛間内博文

小園 亨

小林 和芳

佐藤 裕之

島村 英治

杉村 隆憲

高島 大広

君の手に今日の未来はかかっている。三年間いろいろな事があったが、きつとよい思い出になることだろう。

やつと卒業できた! これからは、スキーだけに打ち込むことができる。

出るくいは打たれる・転ばぬ先のつえ・果報は寝て待て!

長いようで短くなかった三年間、くいばかり残った。

楽しかった三年間、苦しかった三年間、いい思い出になった。

明日はある、しかし昨日はもどってこない。一日一日を大切に。

苦しかった三年間。もうすぐこの学校を卒業します。

とても楽しかった三年間。とても苦しかった三年間。

過去にふり向かず、その日その日を自分のものにしよう。それじゃ、バイバイ。

先生、みんな元気だよな。吹奏楽部は不滅だ! 吹奏楽部十人衆はべっぴんぞういだ! 私はうたこだ!

アハハハ・・・笑ってごまかした三年間!

あつても見せるな殺意とさいふ・・・

中里 千春

西村 直幸

根本 道夫

福井 亨

松山 喜彰

宮本 治之

村本 伸也

八木橋賢司

山岸 忠彦

古仲 達也

芦名沢明美

石川 容子

伊藤恵美子

奥山 朋香

教訓にしよう。

今、あたいたちは熱中時代や。あんたら後輩はあそびに熱中したらあかんで！
くいのない学校生活をおくってきたかな？と、ちよつと心配。

わたしの心を知る真のともだちは、次の時代の子どもたちです。ナーンテ。みなさん！いつまでもこの美しい顔を忘れないでね！バイバイ。

一、二年の皆さん！！今からでも遅くない。もつともつと勉強しよう。

青春／それは、二度と戻らない若い日を君と共に生きることなのだ。

私の瞳がぬれているのは涙なんかじゃないわ。泣いたりしない……夕ハ♡旅立ち。ともこいわく。君ははっこダ！！意味

のわかった人いる！カナ……。

青春キックオフちやぎこけサッカー部勝利は目前だみんながんばってネー。

わが青春サッカー部今度こそ優勝してね。がんばれ。ちゅうじ！

一、二年のみなさん。残り少ない中学校生活、分けあって楽しみましょう。

君は明日の青春に何をかけるか・！
のんたま！！それからみんなつっぱれ！！

金丸 理恵

佐々木礼子

佐藤あけみ

佐藤まつみ

鈴木千賀子

高橋ちえみ

棚上 圭

津田 知子

花摘 博子

樋口 宏美

宮田 裕子

本谷 薫

◆教科担任の先生から◆



たゆまぬ努力を

泉 良子

先日テレビで、女子プロテニスの決勝戦をみました。力とスピードあふれる歯ぎれのよいプレーに魅了されましたが、あのすばらしい技は、それなりの素質は勿論のこと、並々ならぬ練習の積み重ねと努力があったからこそと思われまふ。

体育を教える時思うことですが、運動が「できる」「できない」は素質によるところ大であり、さほど練習をしなくても、いとも簡単になんでもこなせる子もいれば、一生懸命努力しても、その半分もできない子もいます。結果だけをみると前者の方が優れている訳です。とかく私達は結果だけにとらわれて、物事を判断しがちですが、そこに到るまでの過程をもっと重要視すべきだと思うのです。水泳のあまり得意でないA子は、授業が終わった後もなお、黙々と頑張っていました。目立って上達した訳ではありませんが、物事に熱中し努力している姿は、実に美しいものです。

小さな雨滴が、長い年月には、硬い大理石をも穿つといわれています。たゆまぬ努力を失わず、人生、着実に歩んで下さい。

3年D組

担任 田 中 恒 也



突進・後進・転進

小さな苗木が成長し、将来、木として立つに役立つことが予想できるたくましい若木。そしてさらにますます枝をはり、葉をつけ太く高くたくましく成長していくことであろう。

しかし、これからは、肥料も自分で選択しなければならぬ。日照りや長雨のときはじっと耐えなければならない。耐え抜いた木だけにすばらしい木としての将来が約束されるのだ。

失敗をおそれず、その失敗をつぎのチャンスに生かして突き進むそれが若者だ。一步一步着実に、だがときには思い切った跳躍を、またときには後進・転進もできる幅の広い考えを持つてほしい。今一つ注文。なんでもいいから一つだけ自信の持てるものを身につけること、この自信がほかのことに對しても胸をはってぶつかってける力になるものだから。健闘を祈る。

三年D組 動物組

われら三年D組には、動物の多いこと、クモ、イヌ、サル、クマ、アフリカからダチョウ、ガラパゴス諸島からはイグアナと国際的なのです。よせあつめのようなこのクラスがこの一年間、なぜ、平穏無事にすごせたか。それは、やはり、なんといってもみんなが、何事にも、協力していったからではないでしょうか。

その証拠に、賞状の枚数の多いこと。このことは、クラスのはこりといつてもよいのではと思うのです。

次に、田中センセについて

冬になると、ストーブをいじってばかり、ひっかき棒をもって、ガチャガチャ、そして、回りにいる女子には「カッコつけないで、毛糸のはいてきなさいな。」と。男子には「ズボンの下にももひき、はいてこないば、冷えるぞ!」と、あたたかいお言葉。

しかし、次は決まって「ホレ/席につけ。」と。やっとの思いで場所を確保した人にとっては、雪よりも、つめたーいお言葉。

先生が一番、イキイキとする時間は、なんととっても「掃除」、「ホレ、ギツチリしはって。」とか「ホウキの先、あげるんじやないの」とか「ホレ、前から三番めのイス、まがつてる。」など、とても、きびしいのです。だから、みんな、この時間は、緊張のしっぱなしなのです。まあ、以上が、先生についての一言でした。

最後に、三年D組は、笑いのたえないクラスでありましたが、卒業後、次の新しい世界でも、この笑いを、忘れないでいる人は何人いることやら……。男子も女子も、わりと、仲がよくて、(よすぎで、ケンカになることもしばしば)、とにかく、平和なクラスでありました。

追伸、ニワトリと、コマワリさんと、一本足のないタコも3Dのメンバーです。三年D組よ! 永遠に輝け!

(柴田・記)

ガンテラに行くとなんでも願いがかなうぜ！

長いと思った三年間、振り返ってみればとても短かった。

中学校生活は、人生のほんの一ページにすぎない。

希望に向かってはばたけ！

信念、努力と納得の上に時間をかけ人情を失わず不可能を可能にし続けよう。

いよいよ卒業！これからも悔いのない人生を送ろう。

自分の人生を大切に！

人間はつまずきながらも足を伸ばして前進する。

「中学生」この時期は人生のほんの一部だ。この一部が今終ろうとしている。

人間の幸せとは、健康・学問・自由……束縛された社会から自由を求め、大きく翼広げて飛び立とう。……決まった！

三年間が非常に長く感じられた。過ぎ去った過去に時間よ止まれはいらない。

長い長い義務教育がやっと終って明日からは自由に生きてゆこうと思います。

思い出が稲妻のように私の心を引き裂

浅井 豊

安代 秀吉

石田 真一

石田 剛司

岩塚 晃一

大森 浩二

斉藤 浩司

柳原 滋

坂本 達美

佐藤 功

佐藤賢治

佐藤 亨

沢田 隆生

菅 龍彦

高島 靖夫

いた。中学校によい思い出を。

成せば成る、成さねば成らぬ何事も成らぬというは、成さざればなり。

義務教育も終わり、新しい人生が開けてくる。人生を楽しく生きよう！

生きていけば、楽しみ・喜びは自然に生まれるものだと思おう。

三年間の思い出は、一生、忘れないだろう。

。災いこそ真の試金石である。失敗を恐れずにいこう。

柔道部の諸君は全道優勝めざしてガンバってください。

自分の道が見えてきた。それはきびしい。でも僕は負けない社会の戸を開くまで

いよいよ卒業！今までの学校生活を生かしこれからの生活を有意義なものに！

三年の月日は長く学びたるは短かし、母校よ栄えあれ。

三年間の義務教育よサラバ！これから

は未来へ向かってショウワッチ！

風にも道があるようにあちきにも未来の道があるのダノガンバリマース。

高橋 修
田中館卓也
中村 和哉
三橋 一也
柳田 植也
横山 光国
渡部 勝吉
長島 輝幸
榎 量彦
秋山みゆき
荒井 美樹
稲見 弥生

今という時間はもう一生訪れません。
今のこの瞬間を精一杯ENJOYしよう。

あなたはこの三年間にいくつの memoryをつくったでしょうか……。

HELLO、GOOD-BY 笑いな辛い時には明日を想ってEVERYTIME。

青春の第一歩、中学校生活よサヨナラ。バツと後をみてどれだけ満足に歩いてこれたか？ これから納得のいく人生を。

今、青春のページに「ピリオド」を打つ。なんちゃって！ GOOD-BY。

楽しく過ごした中学校生活のよき思い出を青春のページにつづろう。

いつだって女の子らしいかわいらしさやさしさを忘れないでほしい……。

「真実一路」自分の道は自分で決める。夢をおいつづけて……。

長いようで短い中学校生活。Time is moneyですよ。みんな……。

三年間の思い出を胸に秘めて、新しい第一歩を踏み出そう。

夢、希望を忘れずに明日に向かって前進しよう。

byebye、中学の青春……。Hello、未来での青春/よいしょと。

川崎 明美

蒲生 怪子

菊地由美子

木村 麗子

柴田 京子

白井美奈子

田村 直子

敦沢 千香

十倉 志保

永井 静

藤沢 真理

藤村 由美

船木やよい

盛 ひとみ

◆教科担任の先生から◆

ものの見方

長尾 祥子

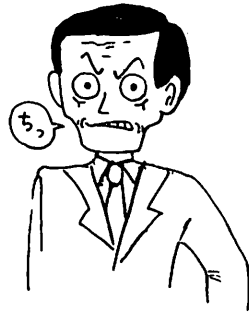
ある座談会記事を読んで驚きました。石川啄木の有名な短歌「東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれてかにとたわむる」を、私は今まで女らしい失意の歌としてよんでいたのです。東海とは日本の辺なかなと考えると、一人の弱々しい男の人が泣いている姿を想像していました。ところが、詩人西脇順三郎氏のその説によると、東海とはヨーロッパからみた東の国の海辺という意味で、つまり日本であるそうです。啄木は明治後期の西洋の文明・思想の感しき、新しさにがく然として、日本における自分の現状を振り返りこの歌をよんだのだということです。一つの歌を、見る立場を変えてよむと、全く違った感じになるのに驚きます。女らしく泣きぬれて、かにとたわむれている病人のような男の人と思ったのが、実は日本の一角から遙かに西欧をのぞみながら奮起しようとして、しかも思うにまかせないでいらだっている雄々しい男性の姿に変化したのですから……。

見方を変えると逆転することもあるのだということをつくづく悟ったのです。

「幸福なアン」という小説の中で、かわいらしい少女アンは、貧しい自分にプレゼントをもらいますが、望んでいた洋服がこないで松葉杖が届きます。するとアンは、考えたあげく私はこれを使わないうですむ身体であることに感謝しますと折るのです。こういう見方ができるのは、天性の素直さもあるでしょうが、やはり自分から進んで「見方」を変えようというに力を入れなくてはなりません。色々な立場・方向から物事を見れる自由な心の持ち主になりたいものだと思いました。

3 年 E 組

担任 猪 狩 一 則



元気でやれ!

3 ☆ E その歩み!

〈プロフィール〉

3 年 E 組は今、その姿をこの世から消しさうとしている。しかし、それは誰にも止めることができない。(ジャン! 決まったなこりゃ!)

では、これから 3 E のおい立ちをお話ししよう。我が 3 E は、二年前 2 C として五稜中に生まれ、その後、努力のかいあって現在の 3 E となった。この間の二年間にいろいろな事がありました。ある者は先生に怒られ、またある者は先生の目をかすめていたずらをしてその道のベテランになったり。また学級全体では、体育大会、水泳大会……に参加し優秀な成績をおさめてきた。(一部例外) そのため我がクラスには賞状がところ狭しとはびこっている。

その他中学校生活三年間の中で一番心に残った修学旅行がある。

修学旅行では、バスの発車時間に遅れて、無残にも置き去りにされた者さえあった。(しかし、この者たちは、あとに来たほかのクラスバスで戻って来たのであった。)このようにこの二年間の間には、楽しいこと(その裏には、泣、泣の苦しいことも)あったようであります。

ここで、この二年間お世話になった、担任猪狩先生について、ほんのゴミくずほどにふれておきたいと思います。彼の特技はご承知のとおり舌うちであり、鋭い目つきであります。そして最近では、(答えがあっても、間違っても、驚いたような声を出す)などの新しいものも出てきました。また彼には、(帰りの学活の終るのが早い)というよいところもあります。(ほんととはもつとある?)

〈エピソード〉

これから、我が 3 E の者たちは、皆はなればなれになる訳だが、この二年間に養った何かをいつまでも持ち続けよう。最後に一言、先生どうもありがとうございました……。

(文責・赤崎)

後に残る五稜中の諸君。野菜をどっさり食べにやだちかんぞブルードリーより。過去をふり返らず、明日に希望を持って歩んでいこう。

35字がなぜこんなにボクを苦しめるのか、バイ。

昨日より今日、今日より明日、常に前向きに心身を鍛えていこう。

おおいに悩み、おおいに苦しもう。それによって心が鍛えられていく。

長いようで、とても短かった三年間には、数えきれない思い出がある。

諸君、君たちは失敗があつてこそ本当の人生を、あゆんでいけるのである!!

I don't know what to write. THE END

長そうで短い三年間、これからの未来に計画をたてよう。

天は人の上に人をつくらず……。

予もいづれの年よりか片雲の風に誘はれて漂白の思ひやまず、ナンタコリヤ!

一つのを成功させるためにはその何倍もの努力が必要である。

失敗を恐れずに、前進、前進、前進あるのみ、勝利をものにしよう。

青木 肇

赤崎 裕次

石原 義一

伊藤 政人

稲葉 滋

伊与部 剛

宇田川 武揚

大上 高史

小川 伸幸

小川 裕司

長内 弘志

尾辻 英一

木内 靖志

後輩のみなさん、今よりもっとよい、五稜を築いてくれ。

There is no royal road to learning.

栄光を追え、今一度精進しよう。Doing nothing is doing ill.

今こそ「野性の証明」を!! 後輩たちよ、勉強に、スポーツに励め

そして努力を、精神力を磨えよ。栄光を求め、今一步前進。

「中学卒業」この思い出こそ、青春にかざろう。

人間は人間で、人間でないと人間とはいえない。

みなさん、ボクは卒業します。また新しいアイドルをはやくみつけましょう。

道を求めて、かけ足人生。私の心をすなおにあらわします。

「さようなら」そして「ありがとう」。

ミンナニ アエテ シアワセタッ! 火星人より。さらば……。

T♥W♥I♥S♥Tをいつまでも応援しておくれ!最後に、みなガンバンナ!何か書かなきゃいけないわ。わかってるけど……!! Bye. Bye.

佐々木勝利

杉山厚司朗

高山 順一

田中 誠至

畠山 直士

深田 雄一

保川 嗣夫

三橋 昇

水野 文夫

目谷 勝彦

石川 智子

小田川聖子

大和田千香子

小倉理加子

みなしやん!

みなしやんのカメラ、元気でつか。

こんな連中でも未練が残る。最後に

沢田まこと大先生より一言。グワシ!

まことちゃんのように笑ってすごした

三年間これが受験生の実態だ。サバラ!

雲の下に青空があることを疑わないよ

うに、いつでもあなたを信じていよう。

ストレートな青春の燃焼はつまらない。

よりクリエイティブにノワイルドに!

時々海を見たいのは皆海から生まれた

から。だけど誰も覚えてない貴方も私も。

先輩諸君! GOOD LUCKな中学

校生活を送ろう。

生命のあるかぎり希望はある。

あなた知ってる? からになった香水の

びんに妖精がすむこと……。

中学校生活、長いようで短かった。み

なさん元気でねーん。わっ。

なんでもよいのです……三年間で一番

心に残るような思い出をつくりましょう。

みなさん。これからもうすーい友情

のイモダチで!

先輩諸君! 自由の道を歩もう。そして

青春へと向かえ! 名文句ですね。

北 知春

幸坂 敬子

佐々木 貴子

須貝 礼子

須藤 信子

友野 純美

中川 祐子

永井久美子

成田 忍

西元 貴子

村山 雅美

柳田 由佳

吉田 明美

◆教科担任の先生から◆



「人生いかに

生くべきか」

鈴木 利治

あれは大学三年の夏休み、柔道部の友人と二人楽しい旅の途中で
あった……。網走から旭川への列車内で、角刈りで目の鋭い男が
話しかけてきた。そして、一枚の紙を我々に見せた。それは「
網走刑務所仮出獄許可書」であった。一瞬、心臓が止まりそうにな
った。許可時間が、すでに過ぎていたのです。つまり脱獄逃走
中なのでした。その人は、荒れた手を見せ刑務所内での生活の厳
しき、彼らの生きている社会の仁義などについて語り出した。ま
た、我々の格好を見て、「俺もあなた達のように、ジーパンもはい
てみたいが、若い者の手前そういふ訳にもいかない」と言い、続けて
「こういう生き方もいやになるが、今さらどうしようもない」と、
寂しそうに語った。追っ手から逃れる為、旭川の手前で降りた。
旭川駅には、15人位の刑務所員が列車の入るのを、見守っていた。
これも、一つの人生である。

卒業というのは、自分というものを見つめ直して、「人生いかに
生くべきか」と、考える一つの機会であらう。

◆先生寄稿◆

耐えること



教頭 辻 俊 治

時々と黒い詰襟の洋服に着替えた中学生が式場に勢揃いした姿は誠に壯観であり、こぶしを握りしめその緊張した面持ちには希望に溢れ、純真さが満ちていた。私も二人の息子と同じような姿を見てきたが、何か急に吾が子が大人になったような気持ちにさえなってきた。そのような気持ちを抱いたのは私一人では決してないだろうと思う。(事実そのような錯覚が、年端もいかない子どもを無理やり都合のよい時に大人の尺度で計りひきずり上げたりもした。子ども自身も回りがそのように自分を見るものだから敢てそのような言動をとるようなこともある。)

さて、今日のような情報過多による刺激はもうそれ自体はどうしようもない今日の問題ではあるがそれにしてもこの詰襟時代の子どもたちは欲求が肥大しており、満たされない多くのことに悩みをもつものである。男の子は女の子に、女の子は男の子に関心を持つ。それは明らかに思春期の特権であり、それ自体健康な欲求(象徴)でもあろう。つまりはつきりと人間としての成長を示すものだが、

しかし、健全なる成長はその欲求に耐えることを知ることにもあると考えられる。この耐性を持つことは人間だからであり、人間としての価値がそこにある。膨大な情報量故、気移りが激しくあれもこれもと求め目を血走らせ、自分自身を見失いがちなのである。

欲望(欲求)だけが膨らんでいき自分の将来を見つめる心のゆとりも、物事を整理して深く思考する余裕もなく、只勉強というものを重圧感として把えアンバランスな生活を余儀なくされている。別の面から見れば、子どもたちは中学生として若さを発散する活動の機会や場を自らの手で放棄している面がある。自らの趣味に安心して潜け込んでいく時間は十分ではないまでもあると思う。ただ情報に追いかけれられ決して価値づけをして選択することをしないで欲望のみを膨らませ、ついには挫折感にとらわれる。前述したように若さの特権として、また、人間として欲求に耐える、我慢するということもあるのではなからうか。今の我々の年代になると耐えるのではなく欲求を持たなくなり、あきらめが先に立つてしまう。明らかに老化現象である。昔の親は子どもに「苦勞は買ってもしなさい」「我慢強い人にならなさい」と日常教え、「雨垂れ石を穿つ」とか人間として努力することの必要性を説いてきたものだ。情報化の時代にあつて情報に価値づけすることや、耐えることを身につけるのも中学生の時代に必要なことであらう。

(最近生徒のセーターのひじに楕円形の「ツギ」が当たっていたので消費時代の今頃にしては珍しい。物を大切に作る風潮復活かと思つたら若者の間で流行しているのだそうだ。そのうちにズボンの臀部に円い「ツギ」の当たつたのが現われるのではないかと心ひそかに期待している。)

五稜中学校

この一年

(学校日誌より)

五稜中学校

この一年

(学校日誌より)

四月

六日 新任式・始業式・入学式

七日 対面式

十日 身分証明書用写真撮影

十一日 健康診断始まる

十三日 生徒会専門委員任命式

二十二日 五稜中学校PTA総会

二十四日 父母会・実力テスト(三年)

二十八日 知能検査(一年)

五月

一日 クラブ部長会議

二日 修学旅行父母会

九日 家庭訪問始まる

十五日 修学旅行出発

十六日 遠足(一・二年)

十八日 修学旅行帰函

二十六日 生徒会総会

六月

一日 体育大会

六日 中間テスト

七月

一日 プール更衣室修理

五日 期末テスト第一

六日 期末テスト第二

十日 全市中学校生徒会協議会

十三日 学級読書会

十四日 実力テスト(三年)

十八日 中体連八種競技壮行式

十九日 中体連八種競技始まる

二十五日 父母会(金学年)

二十六日 終業式

二十七日 夏季休業始まる

八月

二十五日 実力テスト

二十九日 校内水泳大会

九月

一日 中体連水泳大会(市民プール)

三日 道南地区吹奏楽コンクール

十八日 L教室完成

二十一日 秋の遠足(大沼方面)

二十六日 校内球技大会

十月

二十九日 実力テスト(三年)

二日 校内弁論大会予選

七日 第一回校内マラソン大会

十二日 文化祭第一日

十三日 文化祭第二日

二十三日 中間テスト

二十四日 生徒会立会い演説会・投票

二十七日 面接週間始まる

十一月

二日 実力テスト(三年)

四日 避難訓練

十一日 後期クラブ発足

二十一日 インフルエンザ子接始まる

二十二日 受験用写真撮影

二十八日 実力テスト(三年)

三十日 全市生徒会協議会

十二月

四日 期末テスト・卒業記念写真撮影

五日 期末テスト第二

七日 体育館他照明工事完了

八日 インフルエンザ子接(全)

九日 前期総務局会議

十八日 父母会(全)二十一日まで

二十三日 終業式

二十五日 冬季休業始まる

文苑

【随想二編】

ふるさと



二年 山村愛恵

私の毎日は、函館山と向いあつて過ぎていく。公団住宅の四階の私の家からは、どんな日でも函館山がよく見えて、朝起きると窓から函館山を眺める。函館山が朝はつきり見えると、私はほっとして「おはよう」と叫びたくなる。雲で半分しか見えない日は、何となくがっかりする。勉強やピアノのけいこで疲れた時は、ペランタに出て、山や町を目で眺めていき、ここが私の生まれ育った町なんだなあと思う。夕やけ空の山も美しいし、夜の山も又すばらしい、どっしりかまえた山の頂上にテレビ塔の灯がつき、その下に広がる町の家々の灯が、星の光の様に輝いて見える。燈台の光が、細長い光線を放つて、街の四方を照らしながら回転しているのも印象的だ。

函館山から眺める夜景は、世界でも有名だが夏の観光の時期に、山を登る車が、函館山を一層美しくかざる。四季それぞれ、衣がえをする函館山を眺め、私は季節の移り変りを知る。真白な雪におおわれた山が、いつのまにか白いものが消えてゆき、そのうちに緑の色に染め変えられ、やがて濃い緑となり、紅葉となる。そして又、白い物におおわれる、いつどんな時でも函館山を眺める私の心は落ち着き、なぐさめられる。

又函館港から連絡船に乗り、函館山が、家が小さくなるまで眺めるのがたのしみだ。臥牛山と言われる函館山の形が変化してゆくのも興味深いし、青い海、青い空、緑の山、海からの函館は、ほんとうに美しいと思う。私は日本のふるさとと言われる、京都や奈良を、旅行した。古い歴史のある町だけあって短い日数では見つくせない程、有名な神社、仏閣、庭園など、そろそろ家がこいしくなつて、家の人や友達がなにをやっているのだろう、函館はどんな天気かななどいつのまにか、気持ちが函館に飛んでいるのに気づく。遠くに黒いかたまりが見え、キラキラ輝く街の灯、そして海にその灯がゆらいでいる景色

を見ると、なんてきれいなんだろう、私の住む街は、やっぱり一番よいと思う。そして、やっとついたという安心感と、旅の疲れをいやしてくれる。すくなくとも、ふるさとを離れ、外からふるさとを眺めるきかいに恵まれたことに、私は感謝している。自分の街がどんな街か知るには、ほんとうに外から眺めなければできないだろう。ふるさととは、ほんとうにいいものだ、なつかしいものだとしても感ずることができたし、誇りにも思うことができた。そして私の心の中のふるさとは毎日眺めている函館山だとじふしている。私の住んでいる函館は、どんなよい街なのかそしてこれからどんな街にしなければならなしか考えてみた。函館は一八五九年、我が国最初の貿易港として、開港され、外国文化の影きようを受けながら、北海道の文化の発祥の土地となった。これを記念として、毎年港祭りを市民が、こぞつてお祝いする。一万人パレード、花電車、花火大会など、私達にとって楽しい行事がある。又ハリスト教会や、トラピスト、外人墓地などは、観光にかかせないところだ。箱館戦争が行われた五稜郭は、徒歩で十分位で行けるし、学校名、校章は五稜郭をかたどっているの、私は誇りに

思っている。

昭和五十二年五月三日、市民憲章が制定された。私は、「あたたかいまち」「にぎわうまち」「はぐくむまち」「きれいなまち」のびゆくまちと簡単に憶えている。この言葉の中の「きれいなまち」は本当にもつときれいにしたいと私も思っている。まちを歩いていてゴミが落ちていたり、公園がゴミでちらかされていたりしたら、せつかく観光に来てくれた人に不愉快な思いをさせるし、市民として恥かしいと思う。一人一人が自分の住むまちをきれいにしようという自覚を持たなければ、いつまでたつてもきれいなまちにはならないだろう。「はぐくむまち」にしても総合大学を建て、学問や芸術両方に力を入れたら、もつとのびゆくまちになるだろう、総合大学を建てることは、たいへん、むずかしい問題がたくさんあるだろうけど、みんなが力を合せて協力したらできるかもしれない。ふるさとを愛することは、よりよい街にすることだと思う。私は生れ育った、この函館をもつときれいな、のびゆく、にぎわうまちにしたい。まだ子供で何もできないけれど、いつも頭のかたすみに、『よりよいふるさと』の言葉をききみつけてゆこう。そして前途に灯

をみつけることが出来るかもしれない。

秀句

我足にまとわりついた秋の風

二年 会津 信行

山すそも木々の青さにそまりけり

二年 沢口 清美

赤とんぼ空の青さにたわむれる

二年 山内志津子

棧橋に涙かわかす秋の風

二年 高桑 修

午後の日の静けさやぶるせみの声

二年 佐藤 美輪

海なりの音なつかしき秋の午後

二年 上島 美佳

秋晴の遙か彼方に雲一つ

二年 広川 裕

雪の夜時間のひびき耳につく

二年 山城 誠



故郷と私

三年 須藤 信子

「青々と繁る緑、心がなごむかくわしき花、やすらぎを与える豊かな川」と、私の頭の中で「故郷」は綴られている。都心に生まれ育った人々の心には、このような美しい故郷はないだろう。しかし、この一般的な故郷像はなくても、彼らは彼らなりに、都会ならではの故郷と、美しい故郷の理想像は持っているはずだ。指から故郷を「繁る緑、かおる花、豊かな川」と固定化するには至らない。しかし、故郷は人間の心の傷をいやしてくれ、やすらぎを与えるやさしい「母親」だということはいえるだろう。

私の故郷は函館である。そう呼べるのは、十五年間ここで暮らしてきて、いろいろな経験と思い出があるからだ。しかし、なぜか函館が自分の故郷であるという意識は失われているような気がする。それはきっと、現在住んでいる街であるからだだろうが……。そして私は最近、街の名所・名物などの外側から見た場合のことしか知らない自分に気がつき、

新しい目で函館をみつめ、故郷を知ろうと思ったのだ。

故郷函館の街。私の頭にすぐ浮かんでくるもの……。それはふたつある。ひとつは函館を客観的にみた場合連想するもので、一種独特のエキゾチックな雰囲気をもたらしたこの街に、みごとな調和をみせる「ハリストス正教会」である。風見鶏が白亜の壁に溶け込み、とても印象的で、そして尖塔にある鐘の音を聞くと、不思議に心がおちつき素直な気持ちになれるのだ。ロシア人がギリシャ教布教のために建てたというこの教会は、我国初の海外貿易港として栄えた函館の古い歴史を物語っているようだ。

もうひとつは、函館を故郷として主観的にみた場合のもので、私が幼い時、毎日遊んだ「カヤッコ（火薬庫）」と呼ばれる原っぱである。そこには、小さなレンガ造りの火薬庫が点在し、私はその頃の友人に、そこにはアイヌ人が住んでいたと教えられたことをおぼえている。本当にそのような雰囲気的神秘的な原っぱであるが、その友人の言ったことは、真実ではなさそうだ。私はそこで毎日、空が葡萄色に染まるまで蝶やとんぼを採って駆け回っていた。

そこで遊んだ時に負った傷の跡は、今でも私の手足に残っている。が、その原っぱの姿は、どこにもない。都市化の波に押され、あるのは鉄筋コンクリートの団地とガラス倉庫だけ……。私はそれらを見る度に、何ともいえない寂しさにおそわれる。私の心に生きている故郷のイメージとは掛け離れた姿となった「カヤッコ」をみて、私は「故郷の都市化・近代化」を進めながらも明るく、豊かな自然を維持することはできないだろうか考えた。ここで、石川啄木の「故郷の山に向かい言うことなし。故郷の山はありがたきかな」という詩が、自然と私の頭の中に浮かんできて、その詩の意味している事や、啄木がこれを書いた時の心境などを考えているうちに、人々の幼き日の出来事への郷愁というもの、故郷のありがたみを、深く考えさせられたのだった。

「故郷の都市化」とイコールで結ばれる事は、緑が失われ、自然が破壊され、やがては故郷の荒廃となる事だ。そして、それは「人間の欠如」につながると思う。そう思う理由は、故郷を自然という観点から眺めた時、私は人間の個性をつくりあげる環境の影響か人間に対しての役割を知ったからだ。そこで

この故郷を守るため、私が果さなくてはならない役割について私は自問した。

義務教育を受けている少女にすぎない私にできること……。それはいつも自己本位な社会の中で「自分さえよければよい」という利己心を捨て、利他的な清い心を持つことではないだろうか。そうすれば、他人の迷惑となる行いはなくなり、自然破壊に含まれる公害問題は改善されていく。そして人々にあたたかい心をよみがえらせる。だから心のふれあいを大切にすることができるのだ。

ここ数年の間に、函館付近にも人々の「大都市志向」という社会現象が広まってきている。その理由として、二百海里問題で、長い間栄えてきた北洋漁業が衰え、その影響で失業者が続出したという事と、農漁村の若者達が都会へ憧れるという事があげられると思う。特に、数年後「脱都会」という形で故郷にもどつて来る農漁村の若者達に私は強い抵抗を覚えた。それは、この就職難で厳しい社会に適応できる程度の常識、心構えが完全に確立されていない若者達が、都会への憧れや、自立を実践させようという考えなどの入り混じった、そんな拡散した意識のまま社会へ出て

生きてゆけるわけがないと思ったから。そして私は、彼らの行いを稚拙な行動と頭の中できめつけていたのだ。しかし最近私は、そんな若者達への考えが変わってきたのだ。変わったというより彼らを、ほんの少し理解しかけきたような気がする。

新しい時代感覚と産業の原動力を持った若者が故郷を離れる理由……。それは自分の能力を発揮できるものや、知識を広めるものがない田舎即ち、故郷にいては、段々自分が停滞していくのではないかという不安感にかられ、自分の可能性を試すのだろう。だから、彼らのこの行動は「自己啓発」のあらわれにすぎないのではないだろうか……。

「故郷の象徴は何か」と問われたら、私は「方言」と答えるつもりだ。函館の方言は北洋漁業で働く海の男達の荒々しさを呑み込みあたたかく、潮のかおりのする言葉だ。母性愛にも似た人間性のエレメントを含んだ方言はあたたかい「故郷の言葉」であり、人々に愛情溢れた人間像をうかがわがらせ、心に故郷をよみがえらせるなものでもないと思う。

「街の都市化・近代化」の波にのせられ、また、様々な社会問題により、故郷函館の街は、経済的なジレンマにおち込みかけている。

しかし、新しい意欲と気迫が全体を包んでいて活気のある街だという事は、これからも変わらないだろう。なぜなら私達の祖先のフロンティア精神が、これからの函館市民にも受け継がれていくから……。時代の流れを超えて、いつも「前進」を基調とする素晴らしい魅力を持った街こそ私の理想とする故郷だ。だから私は、函館を少しでもその理想に近づいた街とするため努力してゆくのだ。



【私の主張】(二編)

私の青春

一年 斎藤 由美子

みなさんは、青春ということをどのように考えていますか。「なーんだそんな簡単なことか。」と言う人もいるでしょうし、「そんなこと考えてみたこともないよ。」と言う人もいるかも知れませんか。私も今、一生懸命、この手に取って見ることの出来ない青春ということについて、考えているところなんです。でもそうして考えていくうち、もう一つの疑問ができました。「青春時代って、いったいいつのことなんだろう。」と。

同じソロバン塾にいるAさんが、この頃全然姿を見せなくなりました。Aさんと同じ学校に通っている友達にたずねますと、「ああAさんかい、あの入らな中部高校に入るために毎日五時間は勉強するらしいよ。だからソロバンやっているとひまなんかないからってやめたらしいよ。」と言いました。

でも私は「えらいなー。」とか、「感心だなー。」とか全然思わなかったのです。「まだ一年生なのに、まして女の子のくせにガリ勉なんか

おかしい。」と思ったくらいです。でもあんな明なかったAさんがかわいそうだとも思いました。だって2年後の受験のために、毎日友達とも遊べず、やりたいと思う部活動もできず、灰色の日々を送っていくAさんがとてもミジメに思えたからです。それで私は自分に誓いました。今からそんな勉強におわれる生活は絶対しない。

もう一つ例をあげてみましょう。私の友達のBさんが、あることで学級の代表に選ばれました。ところがクラスのある人は、「あんたが代表になったなんて私達のハジだよ。辞退したら良かったのに。」と冷たくBさんに言っただけです。Bさんはとても悔しがり、そして悩みました。私も本当にBさんに同情しました。でもこんなことを言われたBさんは、なおさらフアイトがわいてきたようでした。「今に見ていなさい。きつと立派にやりとげて見返してやるから。」とかえって心の中に強く誓ったのです。それからのBさんのガンバリはすばらしいものでした。辛く苦しい仕事など、途中でなげ出したと思ったこともあったでしょう。しかし、Bさんはそれを見事なりのりこえたのです。立派に自分の責任を果たしたのである。その時ほど、Bさんの喜びの大き

かったことはなかったでしょう。それと同時に、Bさんのことを悪く言ったクラスの友達も、はつきり目がさめたことでしょう。自分は何と恥ずかしいことをしたんだろうと、そして人を信じるということとは、とても大切だということもわかっただろうと思います。

私は、このBさんの話を通して教えられた事は、「青春というのは自分がやろうと思った事を、自分の気のすむまで、自分の力が燃えつきるまで、一生懸命何かにうちこむ。ようにするに、若いうちは、自信をもって何にでも挑戦してみることなんだと。」そのように考えてみると、前にAさんをガリ勉だと笑った自分が恥ずかしく思えてきました。自分の目標に向かつて、まっすぐに進んでいくAさんのような生き方も、一つの青春のあり方だとかかったからです。たとえ、それが猛烈なガリ勉であつたとしても……………。

私は今、バレエ部に入っています。家に帰っては、ソロバン塾に通っています。バレエボールの有名な選手になろうとは思っていません。ただ、私が好きで選んだこの2つのことを、二年、三年になってもコツコツと一生懸命やり通したいと思っています。それは、このような情熱のある間が、私の青春時代だと思ふからです。

自然との調和

三年 畠 山 直 士

皆さん、皆さんは狼について知っておられますか。人間を襲い家畜を食い殺す。考えてみれば害を及ぼす以外に考えられないものです。そういうことでアメリカでは狼をどんどん捕獲し殺していききました。ところが狼の減少とともに野生の鹿も目に見えて減少してきました。いったいこれはどういうことなんでしょう？

今まで狼に殺されていた鹿ですから狼を殺すことによって増えても減る筈がないのに？

いろいろな調査の結果次のようなことがわかったのです。狼が鹿の群れを追いかけて餌食にするのは、足のおそい年とった鹿、足のおそい子ども鹿、そしてもつと足のおそい病気の鹿だったのです。群れの中に病気の鹿がいるということはその群れにとって致命的なことでやがてその群れ全部に蔓延し倒れてしまうのです。狼はその病気の鹿を除いてくれたのですから鹿にとって救い主であったのです。その狼が駆逐されたのですから鹿も減少してきたということ

す。

もう一つお話ししましょう。

国際間で貿易が盛んになり外国物の輸入で日本にいたる筈のないものが突然発生したりします。つい三・四日前も札幌の木材工場で輸入されたラワン材についてきたとしか考えられないサソリが発見されて話題となりましたが………。

日本にいたる筈のないアメリカシロヒトリという蛾が発生しました。この蛾は絹織物にとつて不可欠な蚕に食べさせる桑の葉を食い荒らすのです。アメリカではこの蛾の天敵である蜂を飼っている会社があつてこの蛾の発生が告げられるとその地方へ蜂を持って赴き蜂を放しこの蛾を駆逐しています。日本には残念ながらアメリカシロヒトリの天敵である蜂はおりませんので桑がどんどん食い荒らされ絹織物に甚大な被害を与えているということ

す。

狼とアメリカシロヒトリのお話をしましたがわたしは皆さんにお話したいのは大自然がもっている偉大な知恵ということ。月に足跡をしるした科学の力をもつてしても、最高のコンピューターを駆使してもできる筈のないものです。大自然は実に巧みにバランスを

とり、この大自然に住む生物に住みよい場を提供してくれているのです。ところがわたしたち人間は自分たちの知恵の範囲でのみ、ものを見、考え、この大自然のもつ巧みなバランスを考えようとはしなかったのです。

ちよう度今、紅葉の季節です。たしかに美しい。しかし大きくむしばまれたつたのです。自然保護についてたしかに関心が持たれ、その対策も漸次効果をあげていますがまだまだ不十分だと思っています。

さて、ここで大分前の話題になりますが、漁民がイルカを大量に殺したということで、ごうごうたる非難を浴びましたがあれは漁民の生活防衛ということで止むを得なかった事情があるようです。日本人が鯨を捕獲しその肉を食べ油を利用し骨やひれをまたいろいろに活用するという、言ってみれば欧米人が牛豚を殺してその肉を主食とするのと大差はないと思いますが考えてみれば長い間に培われた国民性、食生活の違いからくる相異であつて問題は保護を考えた上での捕獲ということになると思いますが、いずれにしても非難を浴びるということとは相互理解の不十分さからくるものであつてわたしたちはこの点についても、もっともつと努力していかなければな

らないと思います。

いずれにしても大自然はむしろ生まれつつあります。このまま推移すれば回復不可能な事態になることも考えられます。今ならまだ間に合いそうです。一国のみならず世界中の人間が強い関心をもって相互理解を深め、そしてまた人類の繁栄は大自然との調和とともに発展するのだということをしつかりふまえ、大自然のもつ偉大さを偉大なものとして保ち続けるために立ち上がらなければなりません。人類繁栄のためにも真の美しさをもつた大自然にすることはわたしたちに課せられた義務だと思えます。皆さん、この問題についての具体策を考えてみようではありませんか？

(感想文) 「合同音楽会に参加して」

一年 水島 千香

十一月三日、この日は、私達の練習の成果を発表する「函館市中学校合同音楽会」の日でした。それは、去る十月十二日の文化祭の音楽コンクールで、私達一年C組が一位になったので、それで本校を代表して出場することになったのです。

思いおこせば、十月十二日。本校文化祭の音楽コンクール。この日のために、私達はい

ろいろと話し合って準備しました。まず、実行委員を数名選びました。そして、早速練習を始めました。私はピアノを担当しました。練習は、音楽の授業と放課後です。笛がうまくできない人には、実行委員が教えました。また、練習曲をカセットテープに録音し、それをきいて皆で意見を出し合ったりしました。皆が一生懸命練習して、文化祭を迎えました。

いよいよ当日、全校生徒、父兄の前で、順番を待ち、そして、ドキドキしながらなんとか発表を終えました。そして、結果発表。

「一位、一年C組！」審査の先生の声に「ヤッター」と、思わず喜びの声を上げました。隣りの人と手をとって喜びました。

市民会館前には、予定時間より少し早目に集まって、記念写真を撮りました。順番は、

第二部の六番目。いよいよ、楽屋を出て、舞台の横に並び、それからステージに立ちました。

「次は、五校中学校一年C組の皆さんです。」の、アナウンスを聞くと、自分でも驚くほどドキドキしました。「一人じゃない、一人じゃない」そう自分に言い聞かせながら、周りの様子を見ると、みんなの顔もとても緊張しているのがわかります。

「コンドルは飛んでいく」の方は、無事に終わりました。しかし、「花祭り」の方は、みんなが上がつて、少しテンポが速くなったようでした。でも、吹いている私達は真剣だったので、よくわからないままに終わってしまいました。今でも、時々あの時のことを思い出します。文化祭や合同音楽会の練習には、クラス全員が本当によくがんばりました。音楽の嫌いな人も笛のよく吹けない人も、一生懸命練習し、ベストを尽くしたことは、とてもすばらしかったと思います。そして、私はこのことをクラスの誇りに思っています。



【読書感想文】(二編)

「リーパス」ある野うさぎの物語」を読んで

三年 田 中 誠 至

リーパス、おまえは名刺がわりにふんを置いていく愛敬者。リーパス、おまえは本能が人一倍強いためにいつも幸運をつかめるうさぎ。そんなリーパスが大自然の中で大きく大きく成長するのを見ていくのは心がはればれして気持ちのよいものだ。何回となく襲いかかる危険を力強い本能できりぬけていく。やがて、耳に散弾のあとが残ってはいるが、腕力抜群の堂々たる雄うさぎとなる。その姿を想像すると、なぜか今までの自分がリーパスと一緒に暮らしてきたような錯覚におちいつて、わくわくしてしまう。

野生の動物というものは気まぐれな運命に左右される不安定な生活を送っている。まさに「禍福は糾える縄の如し」である。しかし作者は「概して楽しい生活」という。危険に遭遇するのはきまって人家に近いところであり、人間と猟犬が近づいたときである。機械

文明というものをひっつけて我がもの顔で自然を破壊し、生物を危険な目にあわせる人間を、リーパスはじめ野生動物の本能は決して許しはしないだろう。食物がおいしいというだけでなく、このことがからんで彼等は危険な人家を襲ったのかもしれない。

リーパスには年来の敵、トム・トラードじいさんがいた。彼はあくまでも一個の平凡な人間として描かれている。最後の戦いは「宿命の戦い」ともいうべき劇的な戦いであつた。そしてその戦いが心臓の弱つた彼に密猟者の本能を呼びおこさせるとはなんとという皮肉であらう。そしてじいさんは死んでいく。リーパスという死んでも忘れられない本能の敵を残して。

リーパスにとって第二、第三の敵となると数は増える。しかし、その中で手ごわい相手となると、赤毛のジャック、猟犬ピートリス、密猟者ブラック・ジェイクくらいだろう。ピートリスは特急にひかれて死亡。またジェイクはトラクターに片足を押しつぶされる。それぞれ機械文明そのものにやられてしまう。強い本能の持ち主ジャックだけは持ち前の狡智で逃げきったが。

数々の試練を越えてまた新しい一日が始まる。

リーパスには常に明日があるのだ。夢とロマンと希望に満ちた明日が。しかし、これは本能より理性がはるかに優先する人間だけにしか予知されないことと思うと、何かがしめつけられるような思いがする。

かつての宿敵の敵であり、そして今は亡きトムじいさんのことを考えるリーパスの心のうちはどうだろう。敵が減つたうれしい気持ちと、身近な存在だった彼の死を悲しむ気持ちが混じった複雑な心境だろう。こういったことを表す結末の部分がとても気に入った。

ところで、作者は人間と動物という二つの立場からこの小説を巧みに進めている。学校へ行かず野山で少年期を過ごした作者ならではのことだろう。作者曰く「自然界は子供たちにとっては全くの魔法の世界です。大人になると魔法の力は薄れてしまうのですが、私の中にはまだそれが残っています」と。我々も作者のようにいつまでもういういしさを保持して、謙虚に自然と接していくべきなのだ。このワトキンス・ピッチフォードという作者を詳しくは知らない。しかし、彼の体内に自然の力に満ちた血が流れているのは確かである。彼は自然を失いかけている世の中に、野うさぎの生命の尊さと共に自然を再確認する

この大切さを訴えている。それは我々人間のためなのだ。自分の体内でひそかに息づく自然の力を呼びおこすためだと思う。

果たして我々人間は、この壮大な自然をこゝろも変えていつてよいものだろうか。また、

生活を豊かにする、便利にする、という口実の陰で機械文明に甘えすぎてはいないだろうか。これが、まだ人生を歩み始めなばかりだが、二十一世紀を背おう義務をもつ人間のひとりとしての僕の読後の率直な感想である。

人生経験の少ない僕にこう断言する資格はないかもしれないが、読後に強烈に感じたのはこのことだったのだ。僕の生物としての本能がそう思わせたのかもしれない。

「理性と本能」この全く対称的な二つのものはある接点をもっているように思われてならない。本能に戻って何かをするときだけ、我々は一生物として自然界に帰れるのだ。かといつていつも本能のなすままに従つていたのでは、とうてい人間らしい生活は望めまい。これら二つが人間にとって絶対必要であり、自然を守るために必要なことだと思う。自然を守るためには本能に頼つて生きる一生物としての立場と、あくまでも理性のある人間としての立場の両方が必要であり、問題はそ

の理性の範囲である。一心不乱に勉学に励み一流の学校を卒業し、一流の職につく。こんな一生には理性のみが存在し、本能や自然は無縁である。最後にうさぎのリーパスが成長するにつれて、自然と接するときのういういしさを失っていくのを感じたのは、僕の気のせいだろうか――。

「翼は心につけて」 を読んで

一年 藪 一之

この本は、鈴木亜里さんの十五年という短い一生のうち、骨肉腫という病気のため右腕を肩ごと切りおとした時から、翌年、高校入試に合格し、入学式を四日後にしてなくなつた日までの記録である。その間の周囲の人びとの彼女を助けようとした努力、父母の愛、そして本人の高校合格をめざしたひたむきな努力が、ありありとえがかれている。

彼女は十四才で右腕を切断した。十四才では遊びたいだろうし、運動をしたいだろうし、勉強もしたいだろうし。彼女はどんな気持ち

だったのだろうか。それまでは右手ではしを持ち、鉛筆を持っていた人が、一日で逆の世界へはいる。何をするにも左手一本でやらなければならない。母親の看病記録という章に、母親が本人に右腕切断の話をした時の彼女のようすがこう書かれている。「目に涙が光っていたようにみえた。私が予想していた以上に本人は冷静。すなおに受けとめてくれた。」と。

手術後の彼女は、少しわがままになった。看護婦に日課表を書くように言われた際、六人部屋の他の人がだれもやっていないのに自分だけがと、腹をたてたそうだが、それもすぐにおさまリ、切断から約二か月にして、日常生活はほとんど左手に切り替えることができるようになった。片手でタオルを水道の蛇口に巻きつけてしぼる方法を考えたすなどの努力を経て。

七月に入院してから約三か月たった十月十七日、彼女は右腕の代りに義手をはめて退院した。それからの彼女はたいへんな努力をして学校の授業をうけた。カバンを軽くするために、父母はノートを一冊にし、教科書の必要なページだけを切りとってくれた。テストの際に小さな紙に字を書く時は、おさえる

手の代りに文鎖を使つたが、まだ左手で早く書くことには慣れておらず、悔しがつたそうだが、ついに満点をとることができたのである。父母の協力もあつたが、本人の努力の結果であつたと思う。

将来の仕事として看護婦を志望していたが、片手ではむりと知り、ケース・ワーカーの道を目ざした。身障者が傷つけられることなく、差別のない教育を受けられる和光高校を志望校としてえらび、慣れない左手一本で、しかも入院中の勉強のおくれというハンディを背負いながらも受験勉強にとりかかった。それからの四か月あまり、毎日の苦勞の積み重ねであつたが、ついに報われる日がきた。受験当日、気分が悪くなつて十分に解答できなかった教科もあつたが、ついに彼女は合格したのである。

三月九日再入院し、三月十八日病院で、中学校の校長先生はじめ、担任その他多数の先生方、和光高校の先生、医師、看護婦、友人そして父母に囲まれて卒業式がおこなわれた。再び母親の手記を引用すると、「校長先生から証書をもらつた時の彼女の顔は、紅潮して嬉しげに、恥ずかしげに、そしておしまひには、涙ぐんでいた。」

しかし入学式を四日後にして、四月五日、彼女はなくなつた。

彼女の一生は、それは短いものだった。普通の人の四分の一ほどしかない。でも、その短い一生を大切に生きてきたと思う。彼女の病氣はまずなおらないと言われる骨肉腫というガンだ。本人は死ぬまで病名を知らず希望をもつて病氣と戦ひ勉強してきたのである。

最初の入院のときはおできが右腕にできたため。二度目は、肺炎をおこしたというのが入院の理由である。なおると信じたからこそ和光高校に合格できたんだと思う。

そう信じてうたがわなかった彼女を見る母親、父親はどんなにつらかつたらう。この病氣はかかつてから六か月の間に他に転移していなければまず安全といわれているだけに、両親はその六か月の間、異常がないようにと願つていたのであらう。でもその夢は実現しなかつた。彼女は退院の数日前、血のまじつたたんをだしたのである。それが転移したことを裏づけている。病院の先生に「生命は春まで。好きなことをさせてあげてください。」と死の宣告をうけた両親は悲しみのどん底につきおとされた。が、本人には知せていけないと明るくふるまい、死の直前までふだんと変

わりなく温かく見守っている。

彼女の生き方から学んだこと。一つは、右腕を切断した悲しみからたちなおつたことだ。ささいなことでもなやむほくたち。なやむことも必要だが、なやみや悲しみからたちなおる方が大切だと思う。もう一つは、片腕でむかえた受験勉強のときの努力である。むりだと自殺する人のいる今、しかもなれない左手で必死に勉強し、最後まであきらめなかつた彼女。その姿に深く感動した。

ぼくには彼女の二倍の腕がある。それだけ努力できるはずだし、努力するべきだ。この本を読んだことを機会に今までの生活を反省し、出直したいという気持ちでいっぱいだ。

いのちつてすてきね
みじかいあいだだったけど
あたしはたくさん生きたわ
あたしはとうとう翔んだわ
父さん 母さん
いのちをありがとう

【修学旅行記】

出発―中尊寺編

野 本 卓 也

僕は船が揺れないでくれと願った。四時間も揺られていれば気分が悪くなるに決まっている。が、船は揺れていなかった。大きな建物の中に大勢の人を閉じこめたように船が動いているという感じもなかった。

退屈そのものだった。まるで修学旅行という感じがしないのだ。みんな適当にはしゃぎまわっている。トランプしたり、ゲームしたり、なにがそんなにおもしろいのか。

大声で笑っている奴がいる。

僕は友達といっしょにデッキに出た。そこには他校の生徒が大勢、何が、

「他校の生徒との交流だ」だ。そんなものくそくらえ。みんな品が悪いように見えてくる。(他校生が)友達のひとりが、「何だか高校生みたいだ」と言った。自分より体が大きそうなので異質に思えたのだらう。僕の方は、「何だかあか抜けのしない感じだ。」と思った。まるで動物でも見るように相手をじろじろ見る。向い合えば敵対視!

船内に入ると、みんな楽しくやっている。今まで一人で白けていた自分がアホらしく思え、みんながやっているお遊戯の中にまぜて

もらうことにした。一人だけツツパッテいたってしょうがないのだ。

修学旅行に來たんだなって感じたのは、やっぱり青森に着いてからだ。棧橋から陸橋を渡り、ホームに出て列車に乗りこむ時なんともしえない。僕もその頃は、はしやぎ族の一人になっていた。

これから起こることを期待しながら水沢へ向かったのだ。

暑い。北海道でいえば七月上旬の暑さだ。水沢に着き、列車から降りると、体がとてもだるい。列車の中ではしやぎすぎたからだろう。とても中尊寺など行く気持ちになれない。

「これから中尊寺に行くのかあ!」吐きすてるように、ある不平不満屋が言った。

「なに、かつてなことほざいてやがる。」

腹の中でそう思いながら、けだるさと、暑さを他人にぶつけていた。しかし、それもバスに乗りこむと解決した。クーラーがきいていて快かった。たいていの者は疲れたらしく、倒れるように椅子にすわりこんでガイドのいつもどおりの挨拶も小人数が聞いているだけだった。それでもこれから行く中尊寺に少々期待はしていたのだ。

「こら、ホツクをとめろ! えり章がだらしなくなっていないか!」いつもどおりの先生の文句。写真を撮るのだ。それが終ると案内の人の話を聞きながら金色堂へ向かった。

「うわあ!」

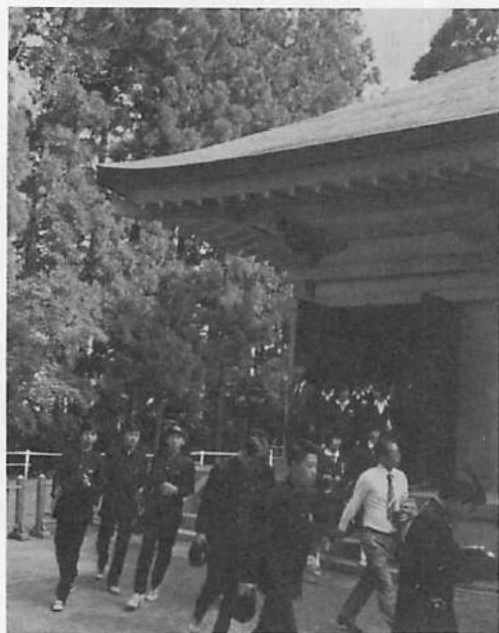
みんな最もらしい顔して見ている。わかるのかこんなの。写真を撮ろうとしたらだめで、説明のテープが流れる。

「神秘的な。」という奴もいれば、「ミイラどこにあんのよ。」と、とばけたことを言う奴もいる。人それぞれなのだ。僕の感じでは何もかも新しすぎる。歴史のおもひなんか、これっぽっちも感じない。

しかし、旧観堂や経蔵、中尊寺本堂を見るとそれが感じられた。日本文化には黄金よりも、木造りの黒ずんだ色の方が似合う。

東物見台で自由行動となった。たった十五分の、もちろん不満だったが、それとばかり付き合っていたのでは楽しいはずの修学旅行も楽しくなくなる。それでもぶつぶついいながら月見坂を下っていった。

バスの中ではみんな無心に窓を見つめているか、何か飲んでいるかだった。疲れているのだろう。修学旅行もまだ宵の口。そんなこととどうするんだい。と思いながらも、うとうと眠ってしまうのだった。



奥入瀬溪流

上田 正博

奥入瀬川は、十和田湖から流れ出る唯一の河川で、湖畔の子の口から焼山まで約十四キロの溪流です。

その間には、いろいろな滝・岩・流れなどがありますが、それらが、深い自然林の緑に囲まれ、その美しさは、まさにわが国随一と言っていいと思います。その美しさを表しているもののひとつに、百両橋・五両の滝・千両岩・万両の流れといわれているのがありますが、合計一万一千百五両、現在の数千万円に値する、たいへん高価な眺めということになります。このような名前がついたことによっても、この溪流の美しさがわかると思います。

この川の特徴は、水がきれいだということ、川沿いに道路を作っていること、滝が多いことなどあげられますが、滝だけ見ていても、おやつと思うほどかわっている滝が見られます。多くの印象に一番深く残ったのが銚子大滝です。奥入瀬溪流唯一の大滝で、中二十メートル、高さ十メートルという、あの大きく、豊かな水量の激しい流れは忘れることができません。そのほかに、白布の滝・白糸の滝九段の滝など珍しい滝がありましたが、どれも忘れることができないほど美しく、美しいものでした。

今回は、途中までバスで、あとは徒歩でしたが、ぜひ一度、徒歩でゆっくり見学したいと思います。歩きながら感じたことですが、川の流れを見ていると、そこに座りこんで、絵をかきたくなるよう

な美しさでした。このような意味からも一度歩いてみたいのです。

それに、もう一度来るとしたら、秋に来てみたいと思います。今回は、緑に囲まれた奥入瀬という感じでしたが、秋の紅葉というのも、一味違った美しさが味わえるだろうと思うからです。

修学旅行という定められた団体行動・日程のために、時間をかけて、ゆっくりと見ているわけにはいきませんが、ぜひ、今度ゆっくり見学したいと思ったほど、眺めのよい美しいところでした。

◇陸奥の湖水美し十和田湖の水流れ出る奥入瀬の川

上田 正博

◇透き通る水をまもって幾千年静けさしみる龍泉洞

毛間内 博文

◇陸奥のながき冬から目をさまし山の麓に葉の花が咲く

◇残雪の淡き光を背に受けて八幡平にスキーヤー舞う

根本 道夫

◇岩めがけ願いをこめて紙飛ばす春の川水少し冷たく

花摘 博子



奥州平泉と藤原三代の栄華

高橋 修

私たちが一日めにおとずれた平泉の中尊寺金色堂は数多い思い出の中で一番心に残るものだろう。

中尊寺は千百五十年から千百二十六年までの二十年以上もの年月をかけて奥州藤原清衡によって建てられた天台宗の寺である。藤原三代によって建てられた寺といえれば初代清衡の中尊寺、二代基衡の毛越寺、三代秀衡の無量光院がある。

毛越寺の金堂は、金銀珠玉でつくられていたというし、観自在院の柱などは純金でつくられていたらしい。しかし、このような寺や中尊寺の大部分は焼けてしまった訳なのだが金色堂や経堂が残っているだけでもよかった。

中尊寺を作るために買った経文や仏像の代金が、金一万五千貫、一万五千貫というキロにして三・七五×一万五千で約五十六トンである。寺をたてるとき黄金一万五千貫を投げ出していればアクセサリーともいえるような物を遠く宋の国まで求めにやったのであるから堂塔の建立には少なくとも数倍の費用をつぎこんだであろうということとは想像がつく。ひとつの寺にそれだけの費用をつぎこんだのであるから三つの寺、それも藤原三代の栄華の象徴とも言えるべき寺のあった当時の平泉の壮大さ、そして華やかさ、それは今の平泉からはとうてい想像できるものではない。

それでもやはり堂の内外を問わず全部うるしをぬり金のはくを張

っているのだからすばらしい。そういうことが細部にまでいきとどいているのであるから東大寺のように雄大だが粗末という感じはせず、美しく細部まできちんと建てられていると感じるのは無理もないことであろう。

せっかく平泉まで来たのに藤原清衡、基衡、秀衡とあと泰衡の首のミイラを見ることができなかったことはとても残念であったが、永久保存のために百年間はどうなにもえらい人が来ても見せないということになっているんではしかたがない。

しかし、資料館のようなところで秀衡公の復元像を見たら今にもガラスをやぶって出て来そうで気味がわるかった。

(寝るときそれを思い出しておっかながっていた人がいた。)

金色堂を写真にとれなかったのは残念だが写真をとらせないところがまたよいのではないだろうか。

注・金一万五千貫は江戸

代の両で三百万両、

今の日本円では約千

二百億円余である。



龍泉洞

藤沢真理

私たちが、南部鉄器工場をあとにして、ひどいガタゴト道をまじえた中をたっぷり三時間はゆられて着いたのが岩泉のここの龍泉洞でした。その日は、非常に蒸しあつく、昼食をとった龍泉洞会館を出たときは汗が出てくるほど。

それでもいざ洞内にはいってみると、中はひんやり肌寒いほどでした。それもそのはず、洞内は、年中約八度を保っているのですから。

この龍泉洞は、高知県の龍河洞、山口県の秋芳洞とともに日本の三大鐘乳洞といわれ、うれら山の三十余りある鐘乳洞の一つだそうです。うれら山というのはアイヌ語で霧のかかった山という意味だそうです。

昭和五年に発見され、昭和十三年にやっと探検されたのだそうです。この間の八年は、探検のための設備が整わなかったためできなかったようです。

洞内の水は、数多い鐘乳洞の水の中でも日本で一番きれいだとされています。ここの水の透明度は、四十一・五メートル、深さは百二十メートルという地底湖もあって、水温は、気温より少し高い十度となっています。このような水深、そして透明度をもつ地底湖は世界でも類がないようです。

私がここにはいつて、一番心に残っているものは、やはり、水の

深さ、そして色の美しさです。洞内の水の色は、あい色と言っているのかエメラルド色と言っているのか、もうなんとまたとえようのない色です。見ているだけで吸いこまれていくような感じですよ。

それともう一つ残っているものと言ったら、やはり鐘乳石の色でしょう。形は、なんだかわからないものが多かったのですが、その色は乳白色のとてもやさしい感じでした。それがあのかたい石であるとは、とても思えない色です。石をそのままに見せるのは、やはり自然の神秘なのでしょう。何百年も何千年もかかって作りあげた……。

龍泉新洞科学館の方は、見学するのに龍泉洞のときのように時間はかかりませんでした。やはり何か神秘性をたたえたものがあったようです。

こうして、龍泉洞を見終わった私たちは、また、蒸しあつい外へと引き返し、それでもなんとか冷房のきいたバスにもどり、この神秘の洞窟をあとにしました。

このあと私たちは、真崎・田老など陸中海岸を車窓見学しながら宮古の国民休暇村へと一路いそいそだったのでした。



旅行秀歌

龍泉洞神秘のベールにつつまれていまなお続く地底の世界
窓の外雲の広がるその中でかすかに見えぬ南八甲田
目ざめれば静かな山の麓から春を装う水が流れる
揺れ動く深緑色の湖にうす紫の霧を浮かべて

寂しげな春の十和田湖人知れず涙流すはつた子と恋唇呂
どこまでも深く藍色十和田湖は神秘の湖心もうつす
奥入瀬の岩をも砕く大滝は魚もよらぬ銚子大滝
木がねむる緑の山に朝日さし長くしずかな夜があける
竜泉洞数千年の太古より静かな営み今なおつづく
外へ出て修学旅行最後の夜友と楽しむフォークダンス

旅行秀句

汽笛鳴り春風通る港町
春の湖はじらい隠せん霧の十和田湖
夕風に一人田うえの人見えゆ
奥入瀬の若葉とけこむ水の音
雪残り八甲田には春浅し
夕映に昔しのばせ中尊寺
後生掛の煙のなかにいのち見ゆ

雅 聡 公 至 順 宣 範
亮 彦 才 一 将 子

幹 賢 雅 直 敬 信 久 明 順 一
治 二 亮 士 子 美 子 人

職員住所録

校長	齋藤 正之	教頭	辻 俊治	教諭	室 富夫	酒田 文雄	島貫 讓	林 俊夫	長岡 正昭	安井 歳男	田中 恒也	阿部 雅朗	佐々木雄幸	毛間内茂二	八反田 稔	鹿角 令夫	大平 元昭	伊藤 英夷	猪狩 一則	板東 忠康	泉 良子	永田 裕三
----	-------	----	------	----	------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------

教諭	平向 貞重	深栖 久佳	長尾 祥子	大久保雄治	鈴木 利治	谷口 幸一	みどり	広沢 博正	門馬 常	田堰 早苗	養護	春田むつゑ	事務	島村 和子	小川安紀子	杉浦ミヤ子	用務	高田 広栄	沢村佐次郎	木村 照江	早崎 石子	給食	熊谷 トシ
----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	------	-------	----	-------	----	-------	-------	-------	----	-------	-------	-------	-------	----	-------

【編集後記】

◇……………終わったノうん、ようやく終わった。

編集というものは、簡単なようで難しい、と言われていたが、今回の僕の場合も、結局そうだった。

「私の生徒会誌・五校」——そういう意識で編集に当たりました。ですから、皆さん、すみずみまで読んでほしい。そして、「私の五校中学生徒会」という実感を持っていただけなら本望です。

アンケート調査など、皆さんから協力いただきました。さらに「カット」を制作してくれた桜井佳織さん（三年）、ご指導下さいました伊藤先生、大久保先生、板東先生どうも有難うございました。（広川 裕）

◇ 私にとって本の編集は初めての試みでした。この仕事を通じて一冊の本を作り上げるのに、こんなに苦労するのを知りました。みなさんの永久の思い出とし、一生大事にとっておいて下さい。（河合 昌夫）

◇ 大がかりな仕事の一つだった「五校」の編集がやっと終わりました。でも、わたしはあまり苦労しなかったように……すみません。努力の結果、見てくださいな。（佐藤 美輪）



◇ 昨年に引き続き、今年も生徒会誌「五校」の編集をしました。二度目の経験とはいえ、やはりたいへんでした。でも、やっと作りあげた生徒会誌です。皆さんの心の中に一生深く刻まれて、残るものにして下さい。（沢口 晴美）

◇ 「五校」——この一冊は、僕達の知恵と努力の固まりである。さあ君も、「五校」を読んでみよう。そして見てみよう。そこには、進歩の足跡がくっきりとついているはずだ。この一冊は、僕達生徒の宝であり財産なのです。（金沢 正樹）

◇ 「なんとなく終わった」というのが実感だな。なにしろ本の編集は初めてだから、ほとんど先輩にやらせてしまったな。でも、アンケートの集計は大変だった。これだけは苦労したと、人に自慢できることだぞ。（辻 直己）

◇ やつと終えた「五校」の編集。初めての大きな仕事だけに苦労もたくさん。改めて責任の重さを感じました。いろいろ助けていただいた先輩、ありがとう。（水島 千香）

・表紙題字 齋藤校長先生・写真提供 緒野一則先生
・表紙デッサン 藤沢真理さん（三年） 板東忠康先生

